

# 大阪市立自然史博物館館報

25

(平成11年度)

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1番23号

大阪市立自然史博物館

平成13年4月1日発行

## 目 次

---

大阪市立自然史博物館のインターネット上での活動 …… 佐久間大輔 ……	1
展 覧 事 業 .....	4
調 査 研 究 事 業 .....	10
資料収集保管事業 .....	17
普 及 教 育 事 業 .....	26
庶 務 .....	35

---

# 大阪市立自然史博物館のインターネット上での活動

佐久間大輔（大阪市立自然史博物館学芸員）

大阪市立自然史博物館（以下自然史博と略記）がインターネット接続をし、ホームページ公開を始めたのは1997年7月。その時点で既に、決して先進的なものではなかったと考えている。学術分野を除けば、まだインターネットが今日ほど一般的でなかった当時、自治体機関として、個人情報保護条例や計算機条例に基づき、慎重なとり扱いを必要とした事はやむを得なかったであろう。それでも、本市においては消防局などと共に最初期のとりくみであった事は自負し、また評価をされている。自然史博のインターネットサーバーは単純な（それも少しばかり旧式な）システムで運用している。今日的な標準からはハードウェア環境はむしろ脆弱なものとなるかも知れない。とはいえ、日々の博物館運用上、インターネット環境は非常に重要なものになってきているといえよう。それは我々博物館にいる学芸員にとってだけでなく、博物館をとりまく市民にとっても価値のある「場」として育ちつつあるように思う。今回は博物館の諸活動へのインターネット活用について、自然史博の二年余の経験を記していきたい。

自然史博のインターネット接続環境は常時接続であり、各学芸員が利用できる端末がある。企業や研究所等ではごく当たり前の環境だが、意外に中小の博物館では実現できていない環境だ。「いつでも使える」環境の実現は仕事の流れにも大きな変革をもたらしている。電子メールやイントラネットの効用はこの職場でも同様のことだが、以下に博物館で特に、と思われることを自然史博での例を元に簡単に述べる。

第1に、電子メールが職場内の合意形成に有力な手段となったことを挙げたい。学芸員は勤務ローテーションがイレギュラーなことが多い。全員がそろうのは定例の会議やゼミに限られる。こうした中で速報としての電子メールは有効だ。しかも学芸員には観察会や企画展示など共同で進める作業が多いため、共有しなければならない情報が山ほどある。現在、メールトラフィックのおよそ1/10程度が館内発着のメールだ。行事の打ち合わせにはじまり、参加者募集の広報原稿、下見結果、当日の資料、そして本番後の記録まで、メールが関係者間に配信されることで情報が確実に共有される。忙しくて不在であっても、きちんと情報が受けられる。書類に紛れがちなメモと違い、メールならキーワードで検索できる。回覧のように誰かがとめてしまう心配もない。ワープロさえ使えば、誰でもが発信できる。必要な文書・データを共有するローカルファイルサーバーとこうした電子メールの併用により、館全体の動きを皆が共有できる体制ができたと思える。いわば情報の水平化である。受け手の側が情報を必要としていなければ無意味かも知れないが、自然史博の場合には従来の制度とうまく適合したようだ。館の様々な課題を学芸員の合議で、また普及委員会、図書委員会、コンピューター委員会といった各種委員会制度で、全員が関わり、運営してきたことが幸いしたといえる。

第2に、インターネットの本来の使われ方であると思うが、研究生活上のツールとしての効用にあえて触れたい。言うまでもなく、博物館は研究者を擁する研究機関である。しかし、院

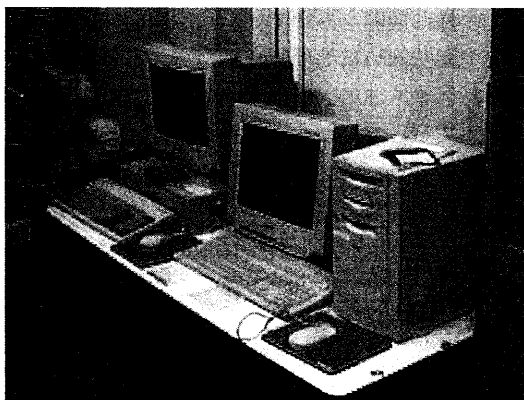


図1. 導入当時のインターネットサーバー（左）と学芸員共用ファイルをいれるLANサーバー（右）

生の多い大学と異なり、博物館の研究者は日常研究上のディスカッションの場を持っていない場合が多い。電子メールを介したディスカッションは気軽に、自分の好きなときに、国内外の研究者との研究上の刺激を持つことができる。多くの学芸員が [jeconet] や [evolve] といった研究者向け ML (メーリングリスト) に加入している。一方で、学芸員の研究活動を反映して、当館学芸員が中心となり多くの研究者が集う、自然史博サーバーを用いた研究目的の ML も稼働している。個々の学芸員が追求する研究テーマに関連した研究者やアマチュアが連絡を取るためのものだ。渡りをするチョウ、アサギマダラのマーキングによる調査を続けているアサギマダラを調べる会の ML である [asagi] や、景観生態学関係の [biomap]、大阪鳥類研究グループ [obsg] など 6 つの研究者用 ML が稼働し、のべ 145 名が利用している。メンバー数やアクティビティは ML により異なるが、自然史博を中心とした研究者 (アマチュア研究者を含む) コミュニティの形成に貢献している。研究者がいる博物館として、手近にこうしたコミュニティが形成できるという利点は大きい。

私たちはこうしたインターネットシステムを館のサーバーに PDS (Public Domain Software) などを追加していくことで整えた。電子メールを利用できる博物館なら同じ様なことはそれほど苦労なくできるだろう。もちろん、館独自のサーバーを持たなくても、商用プロバイダーや無料プロバイダーなどでも最近は様々なサービスが利用可能になっている。このあたりは管理にまつわる利便性と制約などを考慮して決定したらいいのではないだろうか。私たちの場合には行政機関であるということもあり、情報開示やセキュリティを自己管理できる選択肢を選んだが、このあたりも各博物館の状況によって異なるだろう。

自然史博ではホームページなどを通じ、様々な情報を提供している。交通アクセス、催事情報に始まり、展示のみどころ、そして普段は収蔵庫に保管され市民の目に触れることのない標本類についても、一部画像と共に公開をしている。中でも当館のホームページの特徴は展示以外の博物館活動についても、強い力点をおいている所だろう。つまり、調査研究や資料収集そして日常的な普及活動だ。友の会会報の月刊誌 Nature Study でカバーしきれない、旬の自然の情報、記事にしきれない普段の観察、ふとした疑問、特別展の情報などを展開してきた。が、これに留まっていない。調査研究や資料収集は個々の学芸員の専門性が強く反映される部分である。博物館の調査研究・資料収集活動を迫力を持って適時に公開していくためには学芸員個々の取り組みを前面に出して行く事が効果的と考えている。各学芸員の主体的なホームページ作りへの参加により、全体として、非常に豊富な情報量と多様な内容を兼ね備えたサイトを実現できたと考えている。

普及活動は観察会などの催事だけではない。上述のホームページ上で展開される研究活動と連動して多様な展開をみせている。市民参加型調査の新しい形ともいえるかも知れない。ホームページなどで興味深い自然現象を紹介し、情報を募集している。市民が、日常の中でふとした時間にできる自然観察すすめ、それを束ねる活動と考えている。これまでも自然史博では「Nature Study」を使って行っていた手法ではあるが、その web 版とでもいうべきものだ。「カラスのねぐら調査」 <<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/wada/OBSG/CrowFlight.html>> は 1998 年冬に和田岳学芸員が話題にしたもので、大阪府下と周辺の参加者に夕方から巣の飛んでいく方向を市民に報せてもらい、そのベクトルを地図上に重ね、確認したねぐら <<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/wada/Roost/crowroost.html>> と対応させたものだ。同学芸員の主催ページには他にも多くの標本、観察情報が掲載されている。また、初宿成彦学芸員が調査した「兵隊虫勝負」 <<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/shiyake/heitaimeshi.html>> はインターネットの他、新聞紙上などでも紹介され、大阪の子どもたちにかつて流行していた虫を使った遊びの聞き取り調査となった。ブタクサハムシ情報 BOX <<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/shiyake/butakusa-hamushi.html>> は帰化昆虫の分布拡大を追跡したものだ。これらは、報告が web に「眼に見える結果」が現れるこ

とから、多くの参加者の関心と呼んだ。

実は関心を持ったのは市民だけではない。当館の学芸員自身も他の学芸員のページを楽しんで読んでいる節がある。そして他館の学芸員からも、「あのページ面白いね」という評価を多数いただいた。他の分野の学芸員のセミナーを毎日聞いているようなものだからだ。個々の行事では一過性のものとして流されてしまいがちな、かといって学術論文としては表されにくい当館学芸員の普及活動が、ゆっくりと読める、形になって現れたものがホームページなのだと考えている。

とはいえ、やはり私たちのホームページに大きな関心を持っている市民の存在こそが私達の活動を支えている。ホームページを見た参加者は観察会で見た昆虫に、「ああ、これがこの間話題になっていた虫か」とより深く自然を楽しんでいる。インターネット上での予習の効果だろうか、質問も活発になっている。さらに観察会はともすれば教える側（学芸員）と教えられる側（参加者）になりがちだが、参加者の間で教えたり、教えられたりと、水平伝搬している。全体として活性化しつつあるのだ。もちろん学芸員自身もホームページにだした話題を観察会資料などにまとめ、「デジタルデバインド」にならないようにしているのだが、参加者の方でも当館にアクセスするためにパソコンを使い出す動きが（高齢者にさえ）でているのが私達の想像を超えた現実だ。

自然史博の友の会には2000世帯をこえる会員がいる（1999年度）。そして、自然史博の標本を利用したり共同研究をする多くの研究者やアマチュアがいる。ホームページやメーリングリストといったインターネットをめぐる活動はこの博物館を取り巻く人の輪、コミュニティにもよい影響を与えているように思う。インターネットというメディアの特徴をここで改めて書くまでもないが、気軽にだけた表現の世界として定着している。研究者文化として発達したこともあり、アカデミックであり、かつ水平的な対話のためには最適だ。出版物などに比べればはるかに速報性、同時性が高い。このメディア特性は「博物館コミュニティ」の、研究者やアマチュアとの広流の場にうってつけではないか。普及活動、そして研究活動においてもこうした人の輪が多くの結果をもたらすと考えている。このコミュニティそのものが博物館活動を面白くする重要な「コンテンツ」の源だ。この後、どのように発展していくか、どういった実を結んでいくかが楽しみだ。

現在整備中の「（仮称）花と緑と自然の情報センター」では、標本データベースと連動したコンテンツなどさらに高度な情報提供を図っていく予定だ。学校園のIT化など、受け手のインフラや運用実績が充実していくのに従い、さらなる活動の領域も広がっていくだろう。インターネットシステムの維持管理にはそれなりの労力とコスト、そして多少のトラブルリスクも伴うのだが、現在市中には様々なサービスの選択肢がある。我々もその中で身の丈にあったシステムを実現していきたいと考えている。決して「最先端」の実験をしなくても、インターネットの博物館活動における活用はまだまだ無限の領域が広がっているように思える。その時には、個々の学芸員の研究を含めた活動内容の充実が問われるのかもしれない。

大阪市立自然史博物館ホームページ：<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/>

# 展 覧 事 業

自然史博物館の展示は、常設展示を主体とし、特別展示、特別陳列が、これを補っている。

常設展示は「自然と人間」を基本テーマとし、具体的で身近な自然現象から出発し、分野的、地理的に、そして歴史的にも視野を広げることによって、人と自然とのかかわりをも含めた自然界の法則性に至ろうとする考えのもとで展開されている。したがって、館の展示全体が、一つのストーリーによって、組み立てられている。

特別展示は、地元大阪とその周辺地域の自然誌を紹介したり、学芸員の研究成果を広く市民に還元するという趣旨で、年1回開催している。そのテーマについては、少なくとも数年先までの計画を立てている。特別陳列は、特別展と同様な趣旨で行なっているが、より小規模なもの、あるいはテーマを絞ったものであり、また市民からの寄贈品・コレクションの紹介も含めて、随時実施している。

館外においては、市立図書館・市民学習センターなどの依頼に応じて、小規模な移動展示を行なっている。

## I. 常設展

入口のオリエンテーション・ホールでは、基本テーマに基づき、自然史博物館の展示のねらい、すなわち、私たち人間が、どのように自然とかかわってきたのか、そしてこれから、どう自然とつきあっていけばよいのか、ということ、を、象徴的に展示している。

第1展示室「大阪の自然」と第2展示室「地球と生命の歴史」では、身近な大阪の自然から出発して、その歴史を地球の誕生まで遡り、第3展示室「生物の進化」では、その地球上のさまざまな環境において、生物は、他の生物と関わりを持ちながら、常に進化し分布を広げようとしてきたし、今もそうであることを、述べている。そして第4展示室「自然のめぐみ」では、その生物進化の結果である、豊かな自然のめぐみについて展示し、その自然を、未来にも残さねばならないことを訴えて、締めくくりにしている。

2階ギャラリー（一部は1階のオリエンテーション・ホール）では、展示室の中で、十分に紹介しきれなかった、大阪の自然に関する資料の、分類展示を行っている。

平成11年度には、下記の展示の更改・補修等を行った。

### ■全展示室

#### ●展示室サインの改善

従来日本語のみでの表記であった館入口・各展示室入

口（5カ所）などのサインに英語ならびにハングル表記を加えた。

### ■第3展示室

#### ●人体骨格レプリカ製作委託

2足歩行をする人類の骨格の特異性を示すため、上肢・下肢・女性の骨盤の3点のレプリカを製作した。

### ■オリエンテーションホールならびにギャラリー

#### ●マチカネワニ解説パネル更新

オリエンテーションホールに展示しているマチカネワニの解説パネルは、後に他の展示物が追加されたため、その位置が極めてわかりにくくなっていた。位置を変え更新した。

### ■ポーチ

#### ●「なみはや」ベンチ解説プレート新設

復元船「なみはや」を建造するのに使われた木材の残りを利用して製作したベンチに、解説プレートを取りつけた。

## II. 特別展

### 第26回特別展

#### 「海をわたった蝶と蛾 ―東アジアの鱗翅類―」

蝶と蛾を合わせた鱗翅類（チョウ目）は、世界から約165,000種、日本から約5,000種が知られている大きなグループである。日本から記録のある蝶が約325種なので、蛾は蝶の10倍以上の種類数がある。当館では、昭和37年、昭和44年、昭和49年と数年おきに、蝶をテーマとする特別展を開催してきた。しかし、蛾も蝶と本質的には区別できない全く同じ仲間であることから、平成2年に開催された第17回特別展「蝶と蛾の世界 ―蝶のルーツをさぐる―」から蝶と蛾の両方を扱うことにした。

今回の特別展では、「日本の蝶蛾相の成立過程」と「蝶蛾の生活」の二大テーマを掘りさげた。まず、蝶蛾の特徴と生活を紹介し、春～初夏の北上と秋の南下移動を繰り返す、「渡り」をする蝶として有名なアサギマダラにスポットをあてながら、その移動の実態を展示し、移動の謎に迫った。アサギマダラとは対称的に、メスにハネがなく、移動能力がとばしおオオミノガなどのミノムシの生活も紹介した。さらに、日本の蝶蛾を「日本の昆虫のふるさと」とも呼ばれている中国大陸、朝鮮半島、台湾のものと比較することで、日本の蝶蛾相の特徴を明確にして、成立過程を推定した。あわせて、「三草山のゼフィルス森」、「和泉葛

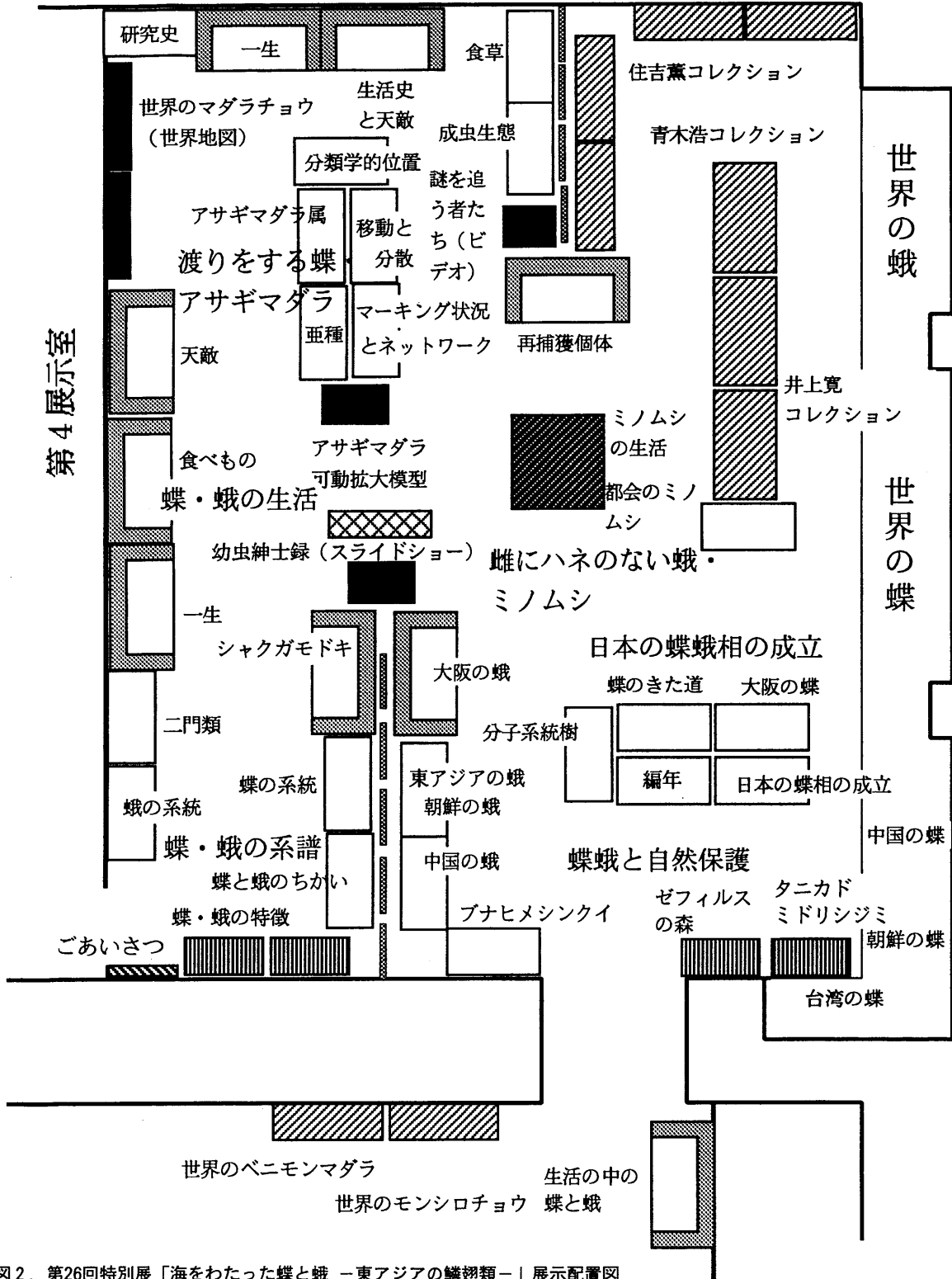


図2. 第26回特別展「海をわたった蝶と蛾 -東アジアの鱗翅類-」展示配置図



図3. 可動拡大模型「大大320号」を  
操作する子供たち



図5. 世界のマダラチョウ類の展示。熱帯地域で繁栄して  
いることがわかる。

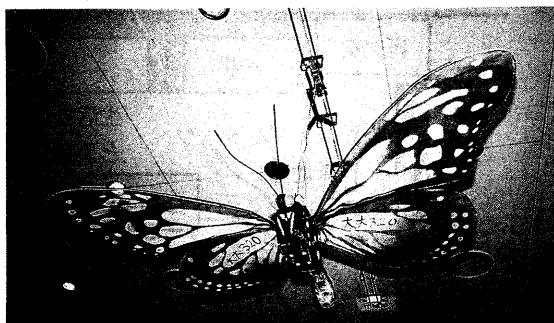


図4. もっとも長い距離を移動したアサギマダラの可動  
拡大模型「大大320号」



図6. Photo CDを使用したスライドショー  
「幼虫紳士録」。蝶・蛾の幼生期を紹介する。

城山のブナと蛾」などのコーナーを通じて、蝶蛾の生活と自然保護について考える場を提供した。

当館は「日本の生物相の成立過程の解明」を重要なテーマに位置づけて、東アジアの生物に関する資料を収集する努力を続けてきた。昆虫研究室でも約15年前から、当時は非常に困難であった中国南部における調査を、中国科学院との共同研究の形をとって推進してきた。当館の学芸員の訪中や中国調査は、この15年間で約7回に達している。この特別展ではその成果を市民に見ていただいた。

●会 期 平成11年 8月7日(土)～10月11日(月・祝)

- 会 場 大阪市立自然史博物館 特別展示室
- 観 覧 料 大人 500 円 高校生・大学生 400 円  
中学生以下無料 団体割引率は通常通り
- 展示内容

I. 蝶・蛾の系譜

1. 蝶・蛾の特徴
2. 蝶と蛾のちがひ
3. 蝶の系統
4. 蛾の系統

## II. 蝶・蛾の生活

1. 一生
2. 食べもの
3. 天敵

## III. 渡りをする蝶・アサギマダラ

1. 世界のマダラチョウ
2. 分類学的位置
3. 研究史
4. 生活史と天敵
5. 食草
6. 成虫の生態
7. 移動と分散
8. 食草
9. マーキングネットワーク

## IV. 雌にハネのない蛾・ミノムシ

1. 分類学的位置
2. 生活史
3. 形態
4. 都市部のミノムシ相

## V. 日本の蝶蛾相の成立

1. 大阪の蝶
2. 大阪の蛾
3. 東アジアの蝶
4. 東アジアの蛾
5. 蝶のきた道
6. 遺伝子による系統分類
7. 日本の蝶相の成立過程

## VI. 蝶蛾と自然保護

1. 三草山のゼフィルス森
2. 和泉葛城山のブナとガ

## ● 関連行事

普及講演会 8月22日(日)

「ハチに擬態 ―東アジアのスカシバガ類―」

有田 豊 氏(名城大学農学部教授)

「東南アジアの蝶たち」

福田 晴夫 氏(日本蝶類学会会長)

自然史講座 8月14日(土)

「旅をする蝶・アサギマダラ」

金沢 至 学芸員(当館昆虫研究室)

## III. 特別陳列

### ■「新収資料展」

平成10年度にあらたに博物館資料に加わった標本の中から主なものを紹介した。

● 期 間：平成11年3月20日(土)～5月30日(日)

● 場 所：特別展示室

● 主な展示物：

1. 世界のヒスイ 25点

コスモ宝飾(株)社長 民谷晴亮氏(東京都在住)より寄贈された「ヒスイ」の原石標本を展示した。日本国内では新潟県糸魚川市や 兵庫県養父郡大屋町・鳥取県八頭郡若桜町など主な産地が網羅されており、海外では、ミャンマー・インドネシア・ロシア・メキシコなど8カ国から集められた標本がある。

2. 日本の中・古生代の化石 吉田コレクション50点

兵庫県西宮市に在住されていた故吉田照樹氏が収集された日本の中・古生代の無脊椎動物化石を中心としたコレクション(吉田コレクション)から代表的なものを展示した。コレクションには高知県産ハチノスサンゴ・クサリサンゴや岩手県・宮城県の北上帯の古生代の地層から産出する三葉虫・腕足類を含む大型標本など、現在では採集が困難な標本が多く含まれている。

3. 中・古生代の植物化石 8点

古生代にはシダ植物が、中生代には裸子植物が繁栄した。古生代のシダ植物である木生シダの樹幹化石、中生代の裸子植物であるソテツ類の樹幹化石、ナンヨウスギの球果化石を展示した。

4. 日本の新生代植物化石 40点

鳥取県辰巳峠累層産のブナ、カエデ、ポプラ、クルミ、ケヤキなどの葉化石(中新世後期、約600万年前)と神戸層群産のフウ、ヌマミズキ、コナラ、バショウなどの葉と果実化石(漸新世、約3200万年前)を展示した。

5. イチョウ化石と「お葉付きイチョウ」 7点

イチョウは大阪府の木でもあり、街路樹として御堂筋などに植えられているなじみ深い樹木である。また、イチョウは中生代の昔から形をあまり変えずに現在まで生きながらえているので、「生きている化石」と呼ばれている。今回は大阪で見つかったイチョウの葉化石(鮮新世、約300万年前)と現生の「お葉付きイチョウ」を展示した。

## ■「新収資料展」

平成11年度にあらたに博物館資料に加わった標本の中から主なものを紹介した。

● 期 間：平成12年3月1日（水）～5月7日（日）

● 場 所：特別展示室

● 主な展示物：

1. ドタブカの剥製標本 1点

ドタブカ *Carcharhinus obscurus* は全世界の温帯から熱帯海域に分布するメジロザメ科の大型のサメであり、日本では千葉県や島根県以南の沿岸、外洋域に棲息している。人喰いザメとは言われるが、実例はあまり報告されていない。今回展示した剥製標本は、明石海峡で操業していた小型底曳網漁船によって1999年7月13日に獲られた全長3.25mの雌の個体で、瀬戸内海では初記録のものである。

2. 自然史博物館地下の地層断面のはぎ取り標本 2点

自然史博物館の西側に建設中の、「(仮称)花と緑と自然の情報センター」の工事現場では、普段はなかなか見ることのできない、大阪平野地下の地層を観察することができた。これらの地層の断面を、樹脂を使ってはぎ取ったものを展示した。断面では、およそ10万年前の地震によってできたと考えられる地層の液状化跡なども観察された。

3. ブテラノドンの全身骨格レプリカ 1点

ブテラノドンは中生代白亜紀に生息していた、空を飛ぶ爬虫類＝翼竜のなかまで、最大の種類では、翼を広げると幅9m以上あった。いまのアホウドリのように海上を滑空し、魚を食べていたと考えられている。アメリカカンザス州で発掘されたもののレプリカを仮組立して展示した。

4. 古生代の植物化石 6点

古生代デボン紀後期（約3億7000万年前）に前裸子植物から種子植物が由来したと考えられている。種子植物の起源となった前裸子植物のアルカエオプテリス（デボン紀）ならびに、デボン紀のシダ植物トクサ類のヒエニア、カラモフィトンなどを展示した。

5. ゴンドワナ大陸の植物－グロッソプテリス－ 4点

オーストラリア、南アフリカ、インドの3地域から産出したグロッソプテリスを展示した。現在は離れた地域の同じ時代の地層からグロッソプテリスが産出することは、古生代後期の南半球には、ゴンドワナ大陸が広がっていた証拠の一つとされている。

6. 神戸層群から産出した植物化石

(大賀吉祐コレクション)

12点

メタセコイア（小枝、球果、雄花）、オオミツバマツ（雄花）、オオガフタバマツ（球果）、モミマツ（球果）の化石を展示した。神戸市周辺に分布する神戸層群は植物化石を多産することで有名である。

7. 榎田恒一氏採集箕面産植物標本

3点

榎田明子氏寄贈。1930年に箕面で採集された合計50点の植物さく葉標本。学校の宿題として作成されたものだが、よい状態の植物をきちんと集め、丁寧に作っている点が評価される。また、70年前の標本であるにもかかわらず、保存状態が良好。ごく普通の種類が収集されているが、当時の大阪の自然の実物記録として貴重なものである。

8. オーストラリア産植物標本（交換標本）

3点

オーストラリアのアデレード植物標本庫との交換により収集した植物標本。重複標本の交換は、余剰の標本を相手の標本庫で有効利用してもらえただけでなく、自分の標本庫にない標本を相手から交換によって入手できる利点がある。

## IV. 館外での展示

### ■「世界のカブトムシ展」

場 所：大阪市立淀川図書館

期 間：平成11年8月1日～30日

展示物：ヘラクレスオオカブトムシ、ゾウカブトムシ、アトラスオオカブトムシほか 30点。

### ■大阪地下の貝化石展

期 間：平成12年2月1日～3月30日

会 場：大阪市立平野図書館

展示物：大阪市内の地下から産出した二枚貝、巻貝類化石約70点

## V. 展示関係の出版物・リーフレット

### ■ミニガイド

- No.18「街で繁殖する鳥」

和田 岳（文）・外丸 須美乃（絵）

大阪府下の市街地で繁殖している鳥20種を中心に、見分け方や生態について紹介している。一般市民向け、B6縦版、本文36ページ、カラー図版4ページ。

---

平成12年3月31日発行, 300円.

■特別展解説書

●第26回特別展

「海をわたった蝶と蛾 ～東アジアの鱗翅類～」解説書  
一般市民向け, B5版縦版, 本文55ページ, カラー図  
版8ページ. 平成11年8月7日発行. 900円.

## VI. 「自然史探検すくらっちクイズ」

自然史博物館は, 大阪市内の他の社会教育施設と同様,  
平成7年より小中学生の入館料を無料としている. このよ  
うな状況の中で, 展示をよく見ることによって, 学習効果  
をいっそう高めることをめざし, 平成8年7月より「自然  
史探検すくらっちクイズ」を, 実施している. 問題のカー  
ドは10種類用意し各5問となっている. 入館時, 小中学生  
に各1枚手渡し, 5問中正解4問以上の場合には, 絵はが  
きを記念品として配布している. ただし学校団体での見学  
は対象外としている.

# 調査研究事業

当館の四つの事業（展覧・調査研究・資料収集保管・普及教育）に、学芸課に所属する学芸員それぞれが、等しく取り組んでいる。これらの四事業を別々のものとしてではなく、互に関連したものにするためには、その根底に調査研究が位置づけられなければならない。本格的な調査研究を通じてこそ、質の高い博物館活動が可能となるからである。

## I. 研究体制

学芸員は、館長を除き全員が学芸課に所属し、5部門の研究室で研究業務に携わっている。

館長 那須孝悌 (Takayoshi Nasu)

動物	山西良平 (Ryohei Yamanishi)	研究副主幹
研究室	波戸岡清峰 (Kiyotaka Hatooka)	学芸員
	和田 岳 (Takeshi Wada)	学芸員

昆虫	金沢 至 (Itaru Kanazawa)	主任学芸員
研究室	初宿成彦 (Shigehiko Shiyake)	学芸員
	松本吏樹郎 (Rikio Matsumoto)	学芸員補

植物	岡本素治 (Motoharu Okamoto)	学芸課長
研究室	藤井伸二 (Shinji Fujii)	学芸員
	佐久間大輔 (Daisuke Sakuma)	学芸員

地史	樽野博幸 (Hiroyuki Taruno)	学芸課長代理
研究室	川端清司 (Kiyoshi Kawabata)	主任学芸員
	塚腰 実 (Minoru Tsukagoshi)	学芸員

第四紀	石井久夫 (Hisao Ishii)	主任学芸員
研究室	石井陽子 (Yoko Ishii)	学芸員
	中条武司 (Takeshi Nakajo)	学芸員補

平成12年3月31日現在

## II. 個別調査研究

### ■那須孝悌（館長）

- (1) 長野県野尻湖周辺における後期更新世・完新世の古植生変遷に関する研究（野尻湖花粉グループの一員として）
- (2) 新潟県馬高遺跡周辺における縄文後晩期の古植生に関する研究
- (3) 静岡県天王山遺跡の植物遺体と花粉の研究

### ■山西良平（動物研究室）

- (1) 日本産間隙生多毛類の分類学的研究
- (2) 大阪湾沿岸の潮間帯生物相の調査

### ■波戸岡清峰（動物研究室）

- (1) ウナギ目魚類の系統分類学的研究
- (2) 大阪湾、瀬戸内海及びその周辺海域の魚類相の調査

### ■和田 岳（動物研究室）

- (1) ヒヨドリの採食生態に関する研究
- (2) 大阪の都市公園の鳥類相の調査
- (3) 大和川下流域及び周辺ため池の水鳥の個体数調査

### ■金沢 至（昆虫研究室）

- (1) 日本及び東アジア産キバガの系統分類学的研究
- (2) 近畿地方の蛾類記録の整理
- (3) アサギマダラの移動の調査
- (4) 新生代の昆虫化石・遺体の研究

### ■初宿成彦（昆虫研究室）

- (1) ハナノミ科甲虫類の分類学的研究
- (2) 新生代の昆虫化石の研究（遺跡の昆虫遺体を含む）  
（長野県信濃町野尻湖、島根県三瓶埋没林、奈良県五條市居伝館跡、大津市粟津湖底遺跡）
- (3) クマゼミの生活史に関する調査
- (4) 大阪府および周辺の甲虫類の分布調査（マサカカツオブシムシ、テントウムシ科、ヒラズゲンセイ、ハムシ科ほか）
- (5) 兵隊虫（ツマグロカミキリモドキ）に関する調査

### ■松本吏樹郎（昆虫研究室）

- (1) 膜翅目ヒメバチ科の分類・生活史・系統学的研究
- (2) 近畿地方の膜翅目相の調査（有剣類を中心に）
- (3) 特定宿主における捕食寄生性昆虫の調査（キョウチクトウスズメ、ゴマダラチョウ、材穿孔性甲虫など）

### ■岡本素治（植物研究室）

- (1) ブナ科植物の分類学的研究
- (2) 種子散布生態学の研究
- (3) ヤブガラシ2倍体と3倍体の分布と生態

### ■藤井伸二（植物研究室）

- (1) コナラ属植物の繁殖生物学
- (2) 西スマトラ地域におけるブナ科植物の分類学
- (3) 琵琶湖および周辺域のフロラと植物地理
- (4) 低湿地性植物の繁殖生物学
- (5) 近畿地方における保護上重要な植物に関する研究  
（レッドデータブック近畿研究会の一員として）

■佐久間大輔（植物研究室）

- (1) 外生菌根性菌類の生態学的研究
- (2) 丘陵地の生物群集の景観生態学的研究
- (3) 二次林植物群集の研究
- (4) 菌類インベントリーの手法と体制

■梅野博幸（地史研究室）

- (1) 日本産長鼻類の分類と系統に関する研究
- (2) 長鼻類の足跡化石に関する研究
- (3) 大阪平野および周辺地域における、鮮新-更新世の古脊椎動物相の変遷と、生層学区分に関する研究
- (4) 備讃瀬戸海底産哺乳動物相に関する研究
- (5) 大阪市および周辺地域の遺跡発掘にともなう層序および脊椎動物遺体に関する研究

■川端清司（地史研究室）

- (1) 四万十帯・日高帯の緑色岩類の産状と構造発達史上の意義に関する研究
- (2) 白亜紀・古第三紀放散虫化石に関する研究
- (3) 南アルプスの四万十帯・白亜系の構造発達史に関する研究
- (4) 現生放散虫に関する研究
- (5) 三重県鳥羽市の恐竜化石産出層準の時代論に関する研究（三重県大型化石発掘調査団の一員として）

■塚腰 実（地史研究室）

- (1) 新生代古植物相の研究
- (2) 化石および現生球果の分類学的研究
- (3) プナ属化石の分類学的研究

■石井久夫（第四紀研究室）

- (1) 大阪平野第四紀層産貝化石の古生態と古環境に関する研究
- (2) 長野県野尻湖層産淡水貝化石の研究（野尻湖貝類グループの一員として）
- (3) 干潟に生息する現生貝類の研究

■石井陽子（第四紀研究室）

- (1) 大阪平野の更新統・完新統の層序と地質構造に関する研究
- (2) 大阪平野ボーリング試料を用いた中・上部更新統の火山灰層序に関する研究
- (3) 長野県野尻湖周辺における上部更新統の層序に関する研究（野尻湖地質グループの一員として）

■中条武司（第四紀研究室）

- (1) デルタ成および浅海成堆積物の堆積過程に関する研究

- (2) 地層の保存ポテンシャルに関する研究
- (3) 陸域における堆積物重力流の分化過程に関する研究
- (4) 大規模噴火に伴う再堆積性火山砕屑物に関する研究

### III. 研究業績の公表

■当館より発行された刊行物

\* は館外研究者。[No. ] は当館業績番号

大阪市立自然史博物館研究報告（Bulletin of the Osaka Museum of Natural History）

第54号 2000年3月31日発行 53ページ

小郷一三\*・藤田喜久\*：沖縄島の浅海より得られた日本初記録のウミシダ類3種。1-12. [No.364] [英文]

伊藤 昇\*：ラオスからの *Oxycentrus* 属の4新種（鞘翅目：步行虫科：ゴモクムシ族）。13-24. [No.365] [英文]

初宿成彦：東アジアからのハナノミ科の新属と一新種について（昆虫綱：鞘翅目）。25-30. [No.366] [英文]

林 成多\*：新潟県中越地方の魚沼層から産出した後期鮮新世—前期更新世のネクイハムシ亜科の化石（その2）：魚沼丘陵産の *Donacia* 属の1新種。31-48. [No.367] [英文]

藤井伸二：藤井（1999）において形態解析に用いたスズシロソウの標本リスト。49-53. [No.368] [英文]

自然史研究（Occasional Papers from the Osaka Museum of Natural History）

第2巻第16号。2000年3月31日発行。12ページ。

藤井伸二：大阪市立自然史博物館収蔵種子植物標本目録1。245-256. [No.369]

■研究室別報文一覧

大阪市立自然史博物館友の会発行の Nature Study 誌は、ns. と略記した。同誌の表紙が「ジュニア会員のページ」と一連の内容の場合は、表紙を記事の一部とみなしてページを付した。同誌の「未来に残したいとおきのおきの大阪の自然100選」シリーズは、「大阪の自然100選」と略記した。当館学芸員以外の著者には氏名に\*を付した。

【館長】

那須孝悌（1999.10）永原慶二監修「岩波日本史辞典」

岩波書店、1802 ps.（項目執筆）

那須孝悌（1999.10）学芸員の地位向上と処遇改善（巻頭言）。博物館研究 34（10）：4-9。

那須孝悌 (2000. 2) 博物館における市民参加. 愛知県博物館協会 平成9年度愛知県博物館協会歴史民俗部門研修会の記録「活きている博物館 ～歴史系博物館のこれから～」: 104-113.

野尻湖花粉グループ (2000. 3) 長野県野尻湖周辺地域における約7万年前の古植生・古気候 ―琵琶湖沖泥炭層の最上部から貫ノ木層の下部にかけての花粉分析―.

野尻湖ナウマンゾウ博物館研究報告 (8): 153-160.

#### [動物研究室]

山西良平 (1999. 6) 四国吉野川感潮域の底生動物 ―友の会観察会の記録― (1). ns. 45 (6): 65-66.

山下隆司・山西良平 (1999. 8) 淀川, 男里川河口および西広海岸における注目すべきカニの記録.

ns. 45 (8): 87-89.

山西良平 (1999. 11) <自然と文化財> 淀川の汽水域と干潟. 大阪の歴史と文化財 (4): 33-37.

山西良平 (2000. 2) ダンゴムシとワラジムシ. ns. 46 (2): 13-14.

波戸岡清峰 (1999. 5) 新種ができるまで (後). ns. 45 (5): 51-53.

波戸岡清峰 (1999. 6) トビハゼ. 大阪人53 (6): 68.

波戸岡清峰 (1999. 8) 明石海峡のドタブカ. ns. 45 (8): 85-86.

和田 岳 (文)・外丸須美乃\* (絵) (2000. 3) 街で繁殖する鳥. 大阪市立自然史博物館ミニガイド No. 18, 36pp.

#### [昆虫研究室]

金沢 至 (1999. 7) 海をわたった蝶と蛾 ―東アジアの鱗翅類―. ns. 45 (7): 73-74.

金沢 至 (1999. 8) 第26回特別展「海をわたった蝶と蛾 ―東アジアの鱗翅類―」解説書 (共同執筆). 蝶蛾の系譜, 蝶蛾の一生, 食べもの, 渡りをする蝶・アサギマダラ, 大阪の蝶, 大阪の蛾, 東アジアの蝶, 蝶のきた道.

金沢 至・山本博子\*・中谷憲一\* (1999. 9) 第26回特別展「海をわたった蝶と蛾 ―東アジアの鱗翅類―」によって. 関西地方の都市部のミノムシ. ns. 45 (9): 98-100.

金沢 至・松本吏樹郎 (2000. 1) キョウチクトウスズメの発生. ns. 46 (1): 1-2.

金沢 至 (2000. 3) 本の紹介「環境昆虫学 ―行動・生理・化学生態」. 昆虫と自然 35 (4): 43.

金沢 至・中谷憲一\*・和田吉博\*・山本博子\*・大築正

弘\*・浅沼 浩\* (2000. 3) 蛾類による箕面川ダム地域の環境評価. 箕面川ダムにおける自然回復の状況調査報告書: 61-71, 大阪府.

富永 修\*・金沢 至・宮武頼夫\*・初宿成彦・昆虫化石研究グループ (1998. 3) 第5節玉櫛遺跡の昆虫遺体. (財) 大阪府文化財調査研究センター調査報告書第31集: 248-251.

初宿成彦・河上康子\*・細井孝昭\*・山崎一夫\* (1999. 4) 関西にも拡がったブタクサハムシ. ns. 45 (4): 39-41.

初宿成彦 (1999. 5) 1998年度友の会合宿「淡路島」の記録. ns. 45 (5): 57.

初宿成彦・桂 孝次郎・奥野晴三 (1999. 8) 行事の記録「韮公園セミのぬけがらしらべ'98」. ns. 45 (8): 93.

初宿成彦 (1999. 8) 琵琶湖岸の海浜性甲虫. 昆虫と自然 35 (10): 39-42.

初宿成彦 (1999. 8) 自然史博物館による中国での昆虫調査. 第26回特別展「海をわたった蝶と蛾」解説書: 31-33.

初宿成彦 (1999. 9) 南西諸島から見つかったハナノミ科の新属新種. 日本昆虫学会大会 (愛媛大学) 講演要旨. 吉道 俊一\*・加藤 敦史\*・初宿 成彦 (1999. 10) マサカカツオブシムシ (カツオブシムシ科) の大阪における追加分布記録と発生消長. 日本環境動物昆虫学会 (奈良女子大学) 講演要旨.

初宿成彦 (1999. 12) 行事の記録と結果報告「長居公園にクマゼミは何匹いるか?」. ns. 45 (12): 141-142.

Shiyake, S. (1999. 12) A new species of the genus *Mordellina* (Coleoptera: Mordellidae) from the Philippines and Sulawesi. Entomol. Rev. Jpn. 54 (2): 143-145.

Shiyake, S. (1999. 12) Insect remains from the bottom of Biwako, Japan. Quaternary Entomology Dispatch, a newsletter ed. S. Elias. Boulder, USA.

初宿成彦 (1999. 12) ザクセン州立ドレスデン動物学博物館を訪ねて (上). ねじればね (85): 14-15. 日本甲虫学会.

初宿成彦 (2000. 1) なにわっ子の危険な虫あそび ―「兵隊虫」勝負―. ns. 46 (1): 3-6.

初宿成彦 (2000. 3) ぜんきょうはいばん (前胸背板/pro-notum). ns. 46 (3): 25-26.

初宿成彦 (2000. 3) 街の話題. 1999年晩秋, 大津でびわこ虫が大発生. はなあぶ, 双翅目談話会 (9): 81-82.

- 野尻湖昆虫グループ [初宿成彦を含む共同執筆] (2000. 3) 第13次野尻湖発掘で産出した昆虫化石. 野尻湖ナウマンゾウ博物館研究報告 (8): 53-58.
- 野尻湖昆虫グループ [初宿成彦, 金沢至を含む共同執筆] (2000. 3) 第8回野尻湖陸上発掘で産出した昆虫化石. 野尻湖ナウマンゾウ博物館研究報告 (8): 139-147.
- Shiyake, S. (2000. 3) A new genus of Mordellidae from East Asia, with description of a new species. Bull. Osaka Mus. Nat. Hist. (54): 25-30.
- 初宿成彦, 六車恭子\*, 六車文明\* (2000. 3) 箕面川ダムの環境調査 一テントウムシ科, ハムシ科, カメムシ類一. 箕面川ダムにおける自然回復の状況調査: 73-84.
- 初宿成彦 (2000. 3) 町人学者, 林匡夫先生と博物館. ねじればね (86): 2. 日本甲虫学会.
- 初宿成彦 (2000. 3) ザクセン州立ドレスデン動物学博物館を訪ねて (下). ねじればね (86): 5-7. 日本甲虫学会.
- 初宿成彦・山本栄治\* (2000. 3) 小田深山およびその周辺のオオハナノミ科・ハナノミ科・ハナノミダマシ科. 小田深山の自然II: 547-556. 小田町教育委員会, 愛媛.
- 松本吏樹郎 (1999. 8) チョウ・ガの天敵. 第26回特別展「海をわたった蝶と蛾」解説書: 13-15.
- 松本吏樹郎 (1999. 9) カタビロコバチの捕食寄生ヒメバチ *Thrybius togashii* Kusigemati の寄生習性 (Hym., Ichneumonidae: Cryptinae). 日本昆虫学会第59回大会講演要旨: 66.
- Matsumoto, R. & Saigusa, T. (1999. 12) Biology of *Pseudopimpla glabripodopeum* He et Chen (Hymenoptera: Ichneumonidae, Pimplinae) with description of final instar larva and redescription of adults. Entomological Science. 2 (4): 467-471.
- 松本吏樹郎 (2000. 2) ドキドキ子ども自然史ウォッチング・ハチ班「長居公園の花に来るハチ調べ」を振りかえって. ns. 46 (2): 18-19.
- 松本吏樹郎 (2000. 3) 捕食寄生バチの世界. ns. 46 (3): 27-29.
- [植物研究室]
- 岡本素治 (1999. 4) 樹木たちの春の息吹. ns. 45 (4): 37-38.
- 岡本素治 (1999. 6) 大阪の自然 100 選41. 天見八幡神社の社叢. ns. 45 (6): 69.
- 岡本素治 (1999. 9) ヤブガラシ—実がなる株とならない株. ns. 45 (9): 105.
- 岡本素治 (1999. 12) 鳥と多肉果のもちつもたれつの関係. 上田恵介 (編) 助け合いの進化論 (1) 種子散布—鳥が運ぶ種子, 築地書館. p. 27-39.
- 岡本素治 (1999. 12) 実をつけた木の下でのシードトラップ実験. 上田恵介 (編) 助け合いの進化論 (1) 種子散布—鳥が運ぶ種子, 築地書館. p. 88-105.
- 岡本素治 (2000. 3) ヒヨドリが来る花. Birder 14 (3): 18-23.
- 藤井伸二 (1999. 4) 琵琶湖岸でハッチョウトンボを記録. ns. 45 (4): 45.
- 藤井伸二 (1999. 6) 絶滅危惧植物の生育環境に関する考察. 保全生態学研究 4 (1): 57-69.
- 藤井伸二 (1999. 7) 大和川でヒキノカサを再発見! ns. 45 (7): 80.
- 藤井伸二 (1999. 8) 今川のオニバスは何個体? 一学芸員体験コース・オニバス班の記録 2 一. ns. 45 (8): 91-92.
- 藤井伸二・永益英敏\*・栗林 実\* (1999. 8) 近畿地方新産のヤナギトラノオとその分布. 植物分類地理 50 (1): 142-145.
- 藤井伸二 (1999. 12) 西の湖のスゲ. 関西自然保護機構会報 21 (2): 93-94.
- 藤井伸二 (1999. 12) 絶滅危惧植物から見た琵琶湖湖岸環境の多様性とその特質. 関西自然保護機構会報 21 (2): 141-149.
- 藤井伸二 (2000. 1) スマトラ紀行 (その4). 近畿植物同好会々誌 23: 8-14.
- 藤井伸二 (2000. 2) どんぐりをめぐる生物間相互作用の研究. エコフロンティア 4: 44-47.
- 植物分科会ワーキングチーム [藤井伸二を含む共同執筆] (2000. 3) 植物編 (大阪府編, 大阪府における保護上重要な野生生物—大阪府レッドデータブック—. 290-429. 大阪府.
- 藤井伸二 (2000. 3) ヒキノカサの個体群規模と生態に関するノート. 水草研究会会報 69: 16-21.
- Fujii, S. (2000. 3) A specimen list of *Arabis flagellosa* Miq. var. *flagellosa* used for morphological analyses in Fujii (1999). Bull. Osaka Mus. Nat. Hist. (54): 49-53.
- 藤井伸二 (2000. 3) 大阪市立自然史博物館収蔵種子植物標本目録 1. 自然史研究 2 (16): 245-256.

佐久間大輔 (1999. 11) 隣の国の里山. ns. 45 (11): 121-122.

佐久間大輔 (1999. 12) 番外 標本の作り方ーキノコ2ー. ns. 45 (12): 135-137.

石井陽子・佐久間大輔 (2000. 3) 上町台地. 大阪の歴史と文化財 (5): 19-25.

佐久間大輔 (2000. 1) イギリス農村部の自然と人々保護活動や社会教育を通して. 国際ロータリー第2660地区1999年度GSE報告書.

佐久間大輔 (2000. 2) 里山でキノコに出会ったら. (社)日本林業技術協会(編)里山を考える101のヒント, (社)日本林業技術協会. p174-175.

#### [地史研究室]

樽野博幸 (1999. 4) 大阪の自然100選39. 一徳防山から岩湧寺へ. ns. 45 (4): 43.

樽野博幸 (1999. 5) 岸和田市でみつかったワニ化石. ns. 45 (5): 49-50.

樽野博幸 (1999. 7) 日本列島の鮮新統および中・下部更新統産長鼻類化石の産出層準. 地球科学53 (4): 258-364.

樽野博幸 (1999. 8) 大阪府岸和田市から発見されたワニ化石. 第四紀 (31): 51-57.

樽野博幸 (2000. 3) 動物遺体 (2) 脊椎動物. 難波宮址の研究第十一集, 199-206, 財団法人大阪市文化財協会.

川端清司 (1999. 6) 橋杭岩. ns. 45 (6): 61-62.

君波和雄\*・宮下純夫\*・川端清司 (1999. 9) 日高累層群瑠璃層中の現地性玄武岩の産状とその意義. 地質学論集 (52): 103-112.

川端清司・君波和雄\* (1999. 9) 奄美大島の四万十帯名瀬層中の現地性玄武岩ー玄武岩の産状と珪化頁岩の化学組成ー. 地質学論集 (52): 139-150.

川端清司・小倉徹也\* (2000. 3) 石組み遺構の石材同定. 難波宮址の研究第十一集, 185-195, 財団法人大阪市文化財協会.

塚腰 実 (1999. 5) ナンヨウスギの球果化石. 大阪人53 (5): 65.

中山勝博\*・安藤善之\*・塚腰 実・鹿野勘次\*・安井謙介\*・實吉玄貴\*・館野満美子\* (1999. 5) 中新統土岐口陶土層にみられる *Pinus trifolia* 球果化石の密集層. 地球科学53 (3): 173-174.

陶土団体研究グループ [塚腰 実を含む共同執筆] (1999. 7) 断層境界を伴う多数の基盤ブロックからなる内陸盆

地ー岐阜県多治見市周辺の東海層群堆積盆地の例ー. 地球科学53 (4): 291-306.

塚腰 実 (1999. 7) 生きている化石メタセコイアと三木茂コレクション. 大阪の歴史と文化財 (3): 25-29.

實吉玄貴\*・中山勝博\*・塚腰 実 (2000. 3) 河川堆積層における植物片の堆積過程ー岐阜県多治見市小名田の中新統土岐口陶土層の大型植物化石の例ー. 地球科学 (54): 127-143.

塚腰 実 (2000. 3) 熊取町の地形と地質. 熊取町史, 本文編, 2-16.

野尻湖植物グループ [塚腰 実を含む共同執筆] (2000. 3) 第13次野尻湖発掘で産出した植物遺体. 野尻湖ナウマンゾウ博物館研究報告 (8): 69-75.

野尻湖植物グループ [塚腰 実を含む共同執筆] (2000. 3) 第8回野尻湖陸上発掘で産出した植物遺体. 野尻湖ナウマンゾウ博物館研究報告 (8): 149-152.

#### [第四紀研究室]

石井久夫 (1999. 5) チリメンユキガイ (二枚貝綱バカガイ科) の古生態. 第17回化石研究会1999年総会・学術大会講演要旨集: 20.

石井久夫 (1999. 11) 食材の (古) 貝類学その2 シジミ. ns. 45 (11): 123-126.

石井久夫 (1999. 12) オカミミガイのなかまの化石. ns. 45 (12): 133-134.

石井久夫 (2000. 3) ササゲミミエガイの“滑走”. 貝類学雑誌 VENUS. 59 (1): 11.

野尻湖貝類グループ [石井久夫ほか5名\*共同執筆] (2000. 3) 野尻湖層産の淡水貝類化石 (その7). 野尻湖ナウマンゾウ博物館研究報告 (8): 59-68.

石井陽子・那須孝悌 (1999. 10) 表紙とジュニア会員のページ「星砂 (ほしすな)». ns. 45 (10): 109-110.

石井陽子・中条武司・銭 祥富\* (1999. 10) 大阪平野上町台地南部における上町層の層序と層相. 日本地質学会第106年学術大会講演要旨集: 162.

石井陽子・佐久間大輔 (2000. 3) 上町台地. 大阪の歴史と文化財 (5): 19-25.

中条武司・石井陽子・銭 祥富\* (1999. 9) 博物館地下に見られた地層の液化化跡ー自然史博物館地下の地質1ー. ns. 45 (9): 104-105.

中条武司・井上 基\*・前島 渉\* (1999. 10) 浅海域における砂の集積過程とストームによる再動作用: 四国南部中新統土岐層群の例. 日本地質学会第106年学術大会

講演要旨集：132.

前島 渉\*・木元高子\*・中条武司 (1999. 10) 沿岸域における砂の集積能とストーム流の発生：新第三紀北但層群村岡累層の例. 日本地質学会第106年学術大会講演要旨集：132.

林 美明子\*・前島 渉\*・中条武司・Rajashree Das\*, K. L. Pandya\* (1999. 10) インド東部タルチール・ゴンドワナ堆積盆における後期古生代氷河の消滅と堆積作用. 日本地質学会第106年学術大会講演要旨集：133.

中条武司・石井陽子・銭 祥富\* (1999. 12) 礫層中の斜交層理 ―自然史博物館地下の地質 2―. ns. 45 (12)：138.

中条武司・石井陽子 (2000. 1) 木の根の化石が語るもの ―自然史博物館地下の地質 3―. ns. 46 (1)：6

井上 基\*・中条武司・前島 渉\* (2000. 2) 浅海域における砂の集積過程とストームによる再動作用：四国南西部中新統三崎層群竜串層下部の例. 堆積学研究 (50)：11-18.

Maejima, W.\*, Kimoto, T.\* and Nakajo, T. (2000. 2) Meter-scale bedding cyclicity in storm-dominated shelf deposits in the Tertiary Hokutan basin, south-western Japan. Jour. Sediment. Soc. Japan 50：3-10.

中条武司 (2000. 2) 堆積学って何？ 1. 堆積学の基礎. ns. 46 (2)：15-17.

里口保文\*・渡辺真人\*・中条武司・片岡香子\* (2000. 3) 上総層群下部に挟在する Kd38 火山灰層 ―房総半島におけるその対比の再検討―. 地質雑106 (3)：189-204.

Nakajo, T., Inoue, M.\* and Maejima, W.\* (2000. 3) Storm-modified delta system in the Miocene Misaki Group, Shikoku, southwestern Japan. Jour. Geosci., Osaka City Univ., (43)：31-55.

#### IV. 文部省科学研究費補助金を受けて行った研究

##### 1. 当館学芸員が研究代表者となったもの

###### ■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者
四万十帯における海嶺沈み込みと白亜紀末～古第三紀テクトニクスに関する研究 (課題番号：11640459)	川端清司

○北海道東部の根室層群分布域において放散虫化石分析用試料を採取した.

○上記試料を含めて、放散虫化石の抽出・分析を行った(継続中).

○沖縄県本部町において、放散虫の基礎研究として現生放散虫の採取と観察を行った.

##### 2. 当館学芸員が分担者として参加した研究

平成11年度は該当なし

##### 3. 当館学芸員が協力者として参加した研究

###### ■基盤研究 (展開)

研究課題：絶滅危惧植物保全を目的とした絶滅リスク評価法の開発

研究代表者：矢原徹一 (九州大学)

当館協力者：藤井伸二

○リスク評価方法の研究会に出席

#### V. 財団等の助成金を受けて行った研究

##### ■藤原ナチュラリストーリー振興財団の助成金を受けて行った研究

研究課題	研究代表者
東アジアのハナノミ科における属の再検討 (2カ年の2年目)	初宿 成彦

○成果の一部を日本昆虫学会 (松山) で口頭発表し (10月), 当館研究報告に発表した (3月).

○ロンドン自然史博物館からの借用標本に基づき, 一新種を昆虫学評論誌 (日本甲虫学会) において発表した.

○渡欧中のエピソードなどを、ねじればね誌（日本甲虫学会）で紹介した。

■全国労働共済生活協同組合連合会の助成を受けて行った研究

研究課題	研究代表者
近畿地方の絶滅危惧植物に関する 情報収集と保全に関する知識の普及	藤井伸二

- ニュースレター（がしゅもく通信1号）の発行
- レッドリスト種のランク評価
- 近畿地方のレッドリスト種に関する情報収集

## VI. 他研究施設との共同研究

●研究課題：共同研究「社会的要因が内湖の生物環境に与える影響」

研究代表者：小笠原 俊明（琵琶湖博物館）

当館分担者：初宿成彦

- 琵琶湖の内湖における現地調査

●研究課題：共同研究「琵琶湖の水生植物の種分化と生態分化」

研究代表者：山川千代美（琵琶湖博物館）

当館分担者：藤井伸二

- 琵琶湖における水生植物の現地調査
- 成果については研究室別報文一覧を参照

## VII. 海外派遣

■国際ロータリー財団 GSE（研究グループ交換）制度に基づく職業研修

氏 名：佐久間 大輔（学芸員）

期 間：9月3日～10月8日

派遣先：英国ニューキャッスル市およびその周辺地域

主な研修目的：

英国の自然・文化財と社会教育、特に自然史に関わる伝統と意識について、各地の当事者にインタビューと実地見学により学ぶとともに、ホームステイという形で市民社会の側からその現状を探ることを目的とした。報告は以下のホームページに掲載されている。

<http://www.gse2660.com/gse00/2660j/sakumaj.html>

主な研修先：

Woodhorn Colliery Museum, Botanical Garden of Durham Univ, Hogfulfarm of East Durham College, North York Moor National Park, Borman museum, Beamish; The Open Air Museum, Hancock Museum of Natural History, BTCV Gates Head Office, Durham Wildlife Trust, The Nature's World, The National Trust, WWT in Washington, Friends of the Earth, The Natural History Museum of London, The Royal Botanic Garden Kewなど

## VIII. インターネットによる研究環境の支援

博物館では平成9年度からインターネットシステムを導入し、市民への情報発信とともに研究活動に利用している。利用の形態は主にホームページの閲覧による研究情報の収集、メーリングリストを含む電子メールの利用、FTPによる外部資料の利用などである。

# 資料収集保管事業

## I. 主な購入標本

### ■昆虫研究室

世界のマダラチョウ類 493点

### ■地史研究室

中国産古生代無脊椎動物化石 30点

スコットランド産古生代魚類化石 1点

モロッコ産古生代ウミユリ化石 1点

アメリカ合衆国インディアナ州産古生代ウミユリ化石 1点

アメリカ合衆国カンザス州産

プテラノドン化石（レプリカ） 1点

中・古生代植物化石 44点

## II. 寄贈および交換標本

### ■動物研究室

紀ノ川感潮域産カニ類 34点 野元 彰人氏

ダチョウ他 52点 天王寺動物園

大阪市中央区産ウグイス 1点 近藤 雅博氏

和歌山県白浜産ウツボ類 1点 山本泰司・太田 満氏

島本町産ヤマアカガエル 1点 杉之原専司氏

石垣島産アオバズク 1点 太田 英利氏

貝塚市産ヤマシギほか 4点 白木江都子氏

新宮市沖産ウナギ目2種 2点 池田 博美氏

堺市浜寺産魚類他 9点 浦野 拓人氏

有明海産潮間帯動物 670点 大阪湾海岸生物研究会

堺市産鳥類など仮剥製 5点 浦野 信孝氏

能勢町産モリアオガエル 1点 浦野 信孝氏

高槻市他産両生類 13点 河上 康子氏

高石市産アオダイショウ 1点 竹田 吉郎氏

北摂産カエル 8点 佐藤 雅史氏他

南西諸島産刺胞動物他 31点 小郷 一三氏

大阪湾産魚類他 25点 鍋島 靖信氏

岬町沖産魚類他 56点 有山 啓之氏

貝塚市稲谷川産ドンコ 1点 坂上 貴一氏他

島本町産スズメ 1点 杉之原専司氏

奈良市産ヒヨドリ 1点 田代 貢氏

奈良市産モグラ 1点 富永 修氏

枚方市産ムクドリ 1点 梶山 健二氏

和歌山県粉河町産ヒミズ 1点 中村 進氏

奈良市産ヒヨドリ 1点 粉川 昭平氏

加古川市産カラス 1点 河上 康子氏

西表島産鳥類 5点 河合 正憲氏

堺市産ゴイサギ他 2点 浦野 信孝氏

東住吉区産ドバト 1点 徳井 和美氏

和歌山県産ウグイス 1点 杉之原裕子氏

伊吹町産両生類 3点 河上 康子氏

京都府芦生産両生爬虫類 7点 野尻湖友の会

宝塚市産ヒバカリ 1点 浦野 信孝氏

八重山諸島小浜島産両生爬虫類 2点 河上 康子氏

平野区産ワニガメ 1点 船井登美男氏

堺市産両生爬虫類 3点 佐野 嘉洋氏他

深日漁港産魚類他 22点 有山 啓之氏

河内長野市産イモリ・カエル 2点 田中久美子氏

日本産両生・爬虫類 2点 富永 修氏

大阪府産魚類他 2点 浦野 信孝氏

鶴見区産バン 1点 島 彩氏

八尾市産ハイタカ 1点 浅野 廣氏他

奈良県産ミソサザイ 1点 藤田 泰宏氏

泉南市産ゴイサギ 1点 田中 正視氏

神戸市舞子産オキナガレガニ 1点 金井真知子氏

徳島市産マイマイ 1点 河上 康子氏

日本産ウミシダ 2点 大谷 道夫氏

東シナ海産クモガニ類 1点 小郷 一三氏

和歌川河口産カニ類 11点 永田 博文氏

高石港産イソミミズ 13点 山本 博子氏

大阪湾産ヒョウモンダコ他 3点 有山 啓之氏

西宮市産シロハラ 1点 田中 貞之氏

住吉区産キビタキ 1点 山野 幸子氏

旭区産ヤブサメ 1点 宇野 美鶴氏

堺市産ゴイサギ他 3点 浦野 信孝氏

豊中市産ヒバカリ 1点 池浦 星美氏

和泉市産マムシ 1点 川端 宏江氏

交野市産ニホンアカガエル 1点 西村 静代氏

能勢町細野川産イモリ・シマドジョウ 2点 浦野 信孝氏

能勢町三草山産イモリ 1点 岸本 光樹氏

琉球列島産ウナギ目2種 2点 吉郷 英範氏

和歌山県産アミメウツボ 2点 池田 博美氏

南宇和産 *Apterichthys klazingai* 1点 平田 智法氏他

阿倍野区産アオバト 1点 堀口 昭保氏

住之江区産ノゴマ 1点 岡林 猛氏

東京都産オナガ 1点 浦野 信孝氏

貝塚市産鳥類 2点 白木江都子氏

資料収集保管事業

島根県産ダイナンギンボ	1点	小西 英人氏	コウモリバエ	2点	浦野 信孝氏
北海道産ノビタキ	1点	富永 修氏	イワツバメシラミバエ	4点	以倉 健次氏
西宮市産シロハラ	1点	田部 恵子氏	セイヨウマルハナバチ	1点	吉田 浩史氏
天王寺区産メジロ	1点	滝沢真由美氏	豊中市の甲虫類ほか	18点	大宮 文彦氏
沖縄県産シロハラ	1点	太田 英利氏	尼崎市のテントウムシ	5点	齊藤 琢巳氏
奈良市産ハシブトガラス	1点	田川 友美氏	大阪府産セアカゴケグモ	2点	西川 喜朗氏
淡路島産魚類	3点	小西 英人氏	淀川産シロジュウゴホシテントウ	3点	大橋 和典氏
大阪市産オオルリ他	2点	吉田 咲子氏	ミヤマヨコミゾコブゴミムシダマシ	1点	齊藤 昌弘氏
箕面市産フクロウ	1点	細田 佳孝氏	熊取町産ヒラズゲンセイ	2点	田野 恵三氏
南宇和産アカメ	1点	津村 英志氏	河内長野市のシロジュウシホシテントウ		
周防灘産潮間帯動物	685点	大阪湾海岸生物研究会		3点	奥田 幸男・雄太氏
岸和田市産ウナギ	1点	西中 美穂氏	南西諸島産昆虫	6点	田端 修氏
高槻市産ホオジロ	2点	吉田 学氏	新潟県産ウオヌマミズクサハムシ化石		
豊中市産アオバト	1点	矢吹 勉氏		29点	林 成多氏
鳥羽市産ダイナンギンボ	1点	小西 英人氏	ビロウドヒメハナノミ	1点	春沢圭太郎氏
吹田市産ツグミ	1点	若杉みちよ氏	日本産テントウムシほか	4点	桂 孝次郎氏
大東市産ホシハジロ	1点	西畑 敬一氏	オーストリアのナナホシテントウ	1点	道盛 正樹氏
奄美諸島他産魚類	33点	増田 修氏	アヤオビヒメハナノミ	1点	奥野 晴三氏
東成区産ホシハジロ	1点	奥田 幸男氏	ハネカクシ科の1新種の完模式標本	1点	林 靖彦氏
沖縄県産キジバト	1点	太田 英利氏	日本産キリギリス類	24点	河合 正人氏
大東市産キジバト	1点	西畑 敬一氏	日本産昆虫類	114点	藤井 伸二氏
奈良県産カラス	40点	田川 友美氏	新潟県出雲崎町産カドマルエンマコガネ化石		
小笠原村母島産爬虫類	10点	鈴木 晶子氏		1点	林 成多氏
京都市産ゴイサギ	1点	宮川五十雄氏	欧州産ハナノミ科甲虫	190点	Pavel Prudek氏
東大阪市産スズメ	1点	岸本 光樹氏	兵庫県および大阪府のブタクサハムシ		
高槻市産キセキレイ	1点	松田 哲弥氏		34点	藤井 俊夫氏
岸和田市産両生爬虫類	8点	西中 美穂氏	フィリピン産ゴミムシダマシ科の完模式標本		
福島県産サンショウウオ類	1点	富永 修氏		2点	加藤 敦史氏
大和葛城山産タゴガエル	1点	楠井 陽子氏	欧州産ハナノミ科	34点	David Hauck氏
大阪府産ヘビ・カエル	2点	和田あづみ氏	南西諸島産ヤエヤマツダナナフシ	1点	市川 顕彦氏
羽曳野市産アオダイショウ	1点	津田 滋氏	和歌山県御坊市産カバマダラ	1点	大島新一郎氏
奈良県産トノサマガエル	1点	浦野 信孝氏	ハネカクシ科の1種の完・副模式標本		
兵庫県産魚類コレクション	4731点	鈴木 寿之氏		2点	林 靖彦氏
■昆虫研究室					
寄贈および交換(*)標本、					
日本産アリ科の1種の完(TI102)・副模式標本	2点	小野山敬一氏	欧州産ネクイハムシ*	222点	アメリカ合衆国・コーネル大学
近畿地方産膜翅目・双翅目昆虫	158点	河上 康子氏			ドイツ・ドレスデン動物学博物館
日本産膜翅目昆虫	39点	富永 修氏	■植物研究室		
日本産双翅目昆虫	89点	富永 修氏	寄贈および交換(*)標本、		
日本および欧州産膜翅目昆虫	8点	桂 孝次郎氏	滋賀県産タカアザミ他	5点	栗林 実氏
日本および欧州産昆虫	569点	春沢圭太郎氏	金剛山産植物	3点	楠井 陽子氏

和歌山県産植物	4点	木下 慶二氏	生駒山産植物	2点	和田 岳氏
信太山産オオトリゲモ	1点	清水 千尋氏	堺市産植物	4点	山本 博子氏
近畿地方産植物	5点	中村 進氏	茨木市産植物	1点	萩原 寛氏
和歌山県産ソテツ	2点	山本 博子氏	大阪府産植物	1点	植村 修二氏
石川県産フキヤミツバ他	2点	石川林業試験場	日本産植物	7点	谷口 丈夫氏
兵庫県産ミズタカモジ	1点	藤井 俊夫氏	兵庫県産オオアカウキクサ	1点	近藤 浩文氏
東大阪市産ウマスゲ	1点	波江野憲良氏	日本産植物*	400点	大本花明山植物園
奄美大島産アカハダクスノキ	1点	内貴 章世氏	西宮市産ヤブガラシ	2点	西本 裕氏
兵庫県産植物	50点	小林 禧樹氏	河内長野市産ヤブガラシ	3点	田中久美子氏
高槻市産コガマ	1点	栗林 実氏	鳥取県産ヤブガラシ	1点	春沢圭太郎氏
三重県産水生植物	2点	廣 達也氏	堺市産ヤブガラシ	1点	山本 博子氏
氷ノ山産ノビネチドリ写真	1点	桂 孝次郎氏	和歌山市産ヤブガラシ	6点	山元 晃氏
大阪府産アギナシ他	3点	田中 光彦氏	西宮市産ヤブガラシ	2点	田中 貞之氏
南港産トウオオバコ	1点	楠瀬 雄三氏	京都府木津町産ヤブガラシ	1点	粉川 昭平氏
堺市産オオミクリ他	6点	平野 弘二氏	大阪府産ヤブガラシ	2点	植村 修二氏
日本産植物	150点	梅原 徹氏	奈良県産菌類標本	500点	丸山健一郎氏
日本産カヤツリグサ科植物	20点	織田 二郎氏	京都府京田辺産硬質菌類標本	50点	池添 皓氏
箕面産ハタザオガラシ	1点	宮武 頼夫氏	河内長野市産変形菌類標本	150点	田中久美子氏
奈良・三重県産ミツバコンロンソウ	2点	富永 明良氏	京都大学芦生演習林産菌類標本	100点	熊谷 充氏
枚方市産オギノツメ	1点	木内 忠二氏	■地史研究室		
箕面産リンボク	1点	宮武 頼夫氏	西田コレクション（岐阜県赤坂石灰岩産出化石）		
茨木市産イトモ他	5点	萩原 寛氏		120点	西田 博氏
近畿地方産植物	100点	梅原 徹氏	古琵琶湖層群産食肉類化石	1点	山本 勝吉氏
奈良市産リボンガラス	1点	粉川 昭平氏	大阪府下産含フズリナ化石石灰岩	20点	
京都市産ヤブガラシ	1点	岡田美恵子氏		山際 延夫氏・谷垣内宏之氏	
大津市産ヤブガラシ	1点	藤井 俊夫氏	日置層群人丸累層産植物化石	2点	岡本 和夫氏
円山川産フジバカマ	1点	栗林 実氏	■第四紀研究室		
豊岡市産コガマ	1点	竹田 正義氏	大阪市内ボーリング資料		
枚方市産植物	2点	橋本 利清氏		51件	大阪市都市整備局
日本産植物*	200点	頌栄短期大学		1件	大阪市交通局
和泉市産植物	3点	清水 千尋氏	Ⅲ. 館員による資料収集		
兵庫県産ヒメシロアサザ	1点	栗林 実氏	■館長（那須）		
大阪府産アイナエ	3点	天野 史郎氏	5月6～10日 沖縄県西表島		
大阪府産植物	79点	平野 弘二氏	花粉・孢子試料		
茨木市産植物	19点	萩原 寛氏	■動物研究室		
和歌山県産植物	5点	木下 慶二氏	担当学芸員は山西…Y, 波戸岡…Hと略記する。		
伊賀上野産オヒルムシロ	2点	三浦 励一氏	有明海各地の干潟で底生動物を採集（5月, Y, H）		
日本産植物	127点	小林 禧樹氏	周防灘周辺で干潟の底生動物を採集（6月, Y, H）		
日本産植物	34点	迫田 昌弘氏	兵庫県竹野町で海岸動物を採集（7月, Y, H）		
日本産植物	50点	迫田 昌弘氏	沖縄県西表島で魚類を採集（7月～8月, H）		
近江八幡産植物	1点	森 小夜子氏	東海地方の干潟で底生動物を採集（10月, Y, H）		
日本産産植物	42点	橋屋 誠氏			

# 資料収集保管事業

## ■昆虫研究室

日本産昆虫の平均的収集、大阪府産昆虫の完全な収集等の目的で、担当学芸員（金沢－K、初宿－S、松本－Mと略記）が行った出張は次の通りである。便宜上、調査研究や資料収集のためばかりでなく、普及行事やその予備調査の際の出張も含めて記した。

1999年

4月5・6日	徳島市吉野川	昆虫類全般（S）
4月9日	高槻市鶴殿	昆虫類全般（K）
4月11日	高槻市鶴殿	昆虫類全般（K、M）
4月14日	岩湧山	昆虫類全般（S）
4月17日・5月22～23日	滋賀県安曇川源流・京都市大原	昆虫類全般（S、M）
4月24・25日	奈良県御所市	昆虫類全般（M）
4月25日	滋賀県安曇川源流・京都市大原	昆虫類全般（S）
5月2～4日	栃木県渡良瀬遊水地・真岡市	昆虫類全般（S）
5月7～10・7月31～8月2日	沖縄県西表島	昆虫類全般（M）
5月16日	兵庫県猪名川町大野山	昆虫類全般（M）
5月20日	住之江区平林	ツマグロカミキリモドキ（S）
5月26・29日	住之江区平林	ツマグロカミキリモドキ（S、M）
5月22・30日	岬町孝子～平井峠	昆虫類全般（K）
5月28日	泉南市尾崎・岬町深日	昆虫類全般（S）
5月31日	泉佐野市和泉葛城山	昆虫類全般（M）
6月6日	岩湧山・河内長野市加賀田	昆虫類全般（S）
6月10・13日	茨木市竜仙峡	昆虫類全般（M）
6月12・16日	滋賀県志賀町比良山	昆虫類全般（M）
6月18日	貝塚市栢谷	昆虫類全般（M）
6月23～25日	鹿児島県屋久島	昆虫類全般（S）
6月28日	箕面市箕面川ダム	蛾類（K）
7月1日	滋賀県伊吹町伊吹山	昆虫類全般（M）
7月1・4日	島本町水無瀬溪谷	昆虫類全般（S）
7月2・12日	模尾山	昆虫類全般（M）
7月13～15日	和歌山県大塔村	昆虫類全般（M）
7月20日	琵琶湖東岸	昆虫類全般（S）
7月26日	箕面川ダム	昆虫類全般（S）

8月12日	滋賀県志賀町比良山	昆虫類全般（M）
8月30日	箕面川ダム	昆虫類全般（S）
9月5日	鞆公園	セミのぬけがら（S）
9月10日	花脊峠 京都府百井町	昆虫類全般（M）
9月15日	御所市金剛山	アサギマダラ（K）
9月19日	箕面川ダム	昆虫類全般（S）
9月21日・3日	八尾市服部川	ハチの巣（K、M）
10月1日	八尾市服部川	ハチの巣（M）
9月29日	兵庫県猪名川町大野山	昆虫類全般（M）
10月1日	泉佐野市和泉葛城山	昆虫類全般（M）
10月2日	枚方市渚	バッタ（K）
10月9日	琵琶湖西岸	昆虫類全般（S）
10月10日	枚方市渚	バッタ（K・M）
10月23日・11月7日	交野市くろんど池	昆虫類全般（S）
10月27～29日	福井県高浜町・石川県加賀市ほか	昆虫類全般（S）
11月3日	京都府芦生	昆虫類全般（S）
11月8日	箕面市箕面川ダム	蛾類（K）
11月21日	大江山	昆虫類全般（S）
11月21日	竜仙峡	昆虫類全般（M）
12月7日	島根県三瓶	昆虫化石調査（S）
12月11・25・26日	京都府八幡市三川合流	テントウムシ（S）
12月26日	京都府八幡市三川合流	（S、M）
12月23日	枚岡	昆虫類全般（M）
12月27日	平野区平野	テントウムシ（S）
2000年		
2月14日	住之江区柴谷	ツマグロカミキリモドキ（S、M）
2月26日・3月12日	高槻市原	ヒグラシ幼虫（S）
3月25日～4月1日	長野県信濃町野尻湖	昆虫化石（S）

## ■植物研究室

調査研究なども含めた資料収集のうち、以下に主なものを記す。担当学芸員は、藤井…F、佐久間…Sと略記する。

4月5・6日	徳島県吉野川	（F）
4月12日	大和川	（F）
5月8～10日	西表島	（F、S）
6月10日	茨木市竜仙峡	（F）

6月15日	伏見桃山	(F)	■第四紀研究室
6月18日	貝塚市栢谷	(F)	担当者名は石井久夫… I H, 石井陽子… I Y, 中条武司…
6月26日	三島郡島本町	(S)	Nと略記する。
6月30日	琵琶湖, 湖北・湖西	(F)	1999年
7月1日	槇尾山	(F)	4月5・6日, 5月2・3日
7月26日	琵琶湖, 湖西	(F)	徳島市周辺吉野川河口域 現生貝類 (I H)
7月26日	東大阪市辻子谷	(S)	5月14～17日 九州有明海沿岸 現生貝類 (I H)
7月30日～8月1日			5月16日 大阪市東住吉区長居公園
	西表島	(F, S)	地層はぎ取り標本 (I Y, N, 樽野)
10月20～22日	高知県・徳島県	(F)	5月20日 大阪市東住吉区長居公園
10月23日	交野市くろんど池	(S)	地層はぎ取り標本 (N, I Y, 川端, 塚腰)
11月5日	今津町浜分	(F)	5月23日 大阪市東住吉区長居公園
■地史研究室			地層はぎ取り標本 (I Y, N)
担当者名	樽野…T, 川端…K, 塚腰…G, 石井陽子…		6月14～17日 山口県周防灘沿岸 現生貝類 (I H)
Y, 那須…N, 中条…Jと略記する。			7月4日 奈良県屯鶴峯付近 ガーネット (I H)
1999年			7月14日 島根県浜田市 第三紀有孔虫など (N)
4月2日	柏原市大和川右岸		7月14・15日, 8月28日
	大阪層群産植物化石 (G, Y)		山口県小郡町 現生貝類 (I H)
5月28日	情報センター工事現場 植物化石		9月1日 吹田市千里北公園
	(G, N, Y, K, 藤井伸二, 初宿成彦)		大阪層群火山灰標本 (I Y)
6月1～2日	岐阜県東海層群産 植物化石 (G)		10月23～25日 三河湾沿岸 現生貝類 (I H)
6月6日	和歌山県湯浅町		11月16～19日 日本海山口県沖 現生貝類 (I H)
	白亜紀無脊椎動物化石 (K・J)		12月8～10日 長崎県対馬 第三紀堆積岩 (N)
8月16～24日	北海道		12月25日 大阪市東住吉区長居公園
	白亜紀・古第三紀放散虫化石 (K)		火山灰・微化石分析用試料 (I Y, N)
9月20日	岐阜県揖斐郡金生山		12月27日 浜松市周辺 第四紀佐浜泥層貝化石 (I H)
	古生代無脊椎動物化石 (T・K)		12月27日 三重県亀山市
9月27日～10月1日			第三紀鈴鹿層群貝化石 (I H)
	沖縄県本部町 現生放散虫 (K)		2000年
10月2～6日	秋田県田沢湖周辺		2月11日 長崎県平戸市 現生貝類 (I H)
	新第三紀植物化石 (G)		2月27日 箕面市粟生間谷東
10月14～15日	岐阜県 阿多岐層産植物化石 (G)		大阪層群生痕化石 (I H)
11月28日	泉佐野市		2月15日 大阪市東住吉区長居公園
	和泉層群産無脊椎動物化石 (T・K・G)		火山灰・微化石分析用試料 (I Y, N)
12月21日	長居配水場・地下駐車場工事現場		3月1日 大阪市東住吉区長居公園
	泥炭層 (G, N, Y, T)		火山灰・微化石分析用試料,
12月29日	和歌山県由良町 現生放散虫 (K)		貝化石? (I Y, N)
2000年			3月15日～18日 鹿児島県種子島・屋久島
1月18日	長居配水場・地下駐車場工事現場 泥炭層		火山灰試料 (I Y)
	(G, N, Y, 初宿成彦, 松本吏樹郎)		
1月23日	神戸市 神戸層群産植物化石 (G)		

## IV. 業務委託による収集

業務名：大阪湾岸壁付着生物採集・検定業務

採集水域・場所：大阪湾内5ヵ所（大阪北港，泉大津，  
淡輪，西宮，明石）

採集時期：平成11年11月

方法：

## (1) 採集

小形船舶を用い，スキューバ潜水により作業をする。  
1ヵ所について基準海面から0m，2mおよび4mの各水深について3個の方形枠（25×25cm）を設置し，枠内の全生物を採集し，ホルマリンで固定して試料とする。  
同時に付近の主要な生物を目視同定し，記録する。

## (2) 検定

持ち帰った試料を同定し，種毎に個体数・湿重量を測定する。

## V. 現有資料数

## ■動物研究室（平成11年度末）

海綿動物	113点
刺胞動物・有櫛動物	656点
扁形・紐形動物	284点
触手動物	135点
環形動物	5,005点
甲殻類	8,960点
軟体動物	23,017点
棘皮動物	2,152点
原索動物	430点
その他無脊椎動物	738点
魚類	15,281点
両生類	20,094点
爬虫類	4,174点
鳥類・哺乳類	3,380点
(計)	84,419点

## ■昆虫研究室（未登録標本を含む）

標本総計 565,244点（平成11年度末の標本数）

（日本産 446,030点，外国産119,214点）

内訳

## ●日本産昆虫 平成11年度末

Plecoptera カワゲラ目	432
Ephemeroptera カゲロウ目	130
Odonata トンボ目	17,556
Mantodea カマキリ目	324
Orthoptera 直翅目	9,533
Phasmida ナナフシ目	243
Dermoptera ハサミムシ目	424
Grylloblattodea ガロアムシ目	21
Blattodea ゴキブリ目	409
Isoptera シロアリ目	86
Embioptera シロアリモドキ目	25
Psocoptera チャタテムシ目	334
Thysanoptera アザミウマ目	24
Heteroptera 異翅類（カメムシなど）	25,712
Homoptera 同翅類（セミなど）	13,315
Neuroptera 脈翅目	1,413
Mecoptera シリアゲムシ目	1,640
Trichoptera トビケラ目	2,130
Heterocera 蛾（ガ）	30,243
Rhopalocera 蝶（チョウ）	35,405
Coleoptera 甲虫目	235,696
Diptera ハエ目	18,141
Hymenoptera ハチ目	36,516
その他（各目）	16,278
(計)	446,030

## ●外国産昆虫 93,461

蝶（チョウ）	43,094
蛾（ガ）	4,217
膜翅目（ハチ）	4,596
双翅目（ハエ）	486
甲虫	28,997
脈翅目（ウスバカゲロウなど）	44
同翅類（セミなど）	5,748
異翅類（カメムシなど）	1,252
直翅型昆虫	1,622
トンボ	1,218

カワゲラ	64
その他（各目）	3,088
南太平洋学術調査コレクション	4,700
田中竜三氏コレクション（日本産含む）	12,439
韓国産昆虫コレクション（西川・桂・富永氏）	1,506
アフガニスタンの昆虫（有田 豊氏他）	6,143
（計）	119,214

#### ■植物研究室（平成11年度末、未登録標本を含む）

種子・シダ植物腊葉標本	195,279
蕨類標本	34,730
苔類標本	23,000
地衣類標本	353
海藻標本	12,647
菌類標本	2,915
木材標本	1,772
木材プレパラート	1,283
果実標本	6,071
（計）	278,050

#### ■地史研究室（平成11年度末、登録済標本数）

岩石	1,275
鉱物	2,513
古生代無脊椎動物化石	1,376
中生代無脊椎動物化石	3,089
第三紀無脊椎動物化石	1,017
有孔虫等微化石プレパラート	17,841
放散虫化石	135
古生代植物化石	65
中生代植物化石	205
第三紀植物化石	1,791
古生代脊椎動物化石	25
中生代脊椎動物化石	67
第三紀脊椎動物化石	297
第四紀脊椎動物化石	1,119
現生哺乳類	491
（計）	31,306

#### ■第四紀研究室（平成11年度末、登録済標本数）

人類遺物	29 点
植物化石	17,772 点
現生花粉プレパラート	2,114 点
現生花粉	941（種）
現生シダ植物胞子	362（種）
無脊椎動物化石	3,560 点
大阪市内ボーリング資料	914（件）
（計）	25,692 点（件・種）

## VI. 収蔵資料目録の発行

### ■大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第32集

鈴木寿之・細川正富・波戸岡清峰

兵庫県産魚類標本目録

— 鈴木寿之魚類コレクション兵庫県産編 —

川西市在住の鈴木寿之・細川正富両氏によって、1990年から1999年までの10年間に兵庫県で採集され、自然史博物館に寄贈された5,232点の魚類標本の目録。鈴木・細川氏入力の標本データベースをもとに、波戸岡が兵庫県産魚類目録（165科572種）を作成した。

収蔵資料は、円山川、千種川、揖保川、加古川などの淡水魚類、日本海側の海産魚類が充実しており、目録には今までほとんど報告のなかった淡路島の淡水魚類も含まれている。また、今までほとんど調査のなされていなかった浜坂町沖水深100m前後の海底から得られた魚類をカラー図版で紹介。

#### 内 容：

はじめに	p.2
兵庫県産魚類目録	p.5～45
収蔵標本目録	p.47～131
学名の変更などに関する参考文献	p.132
収蔵標本を利用して公表した	
兵庫県産魚類に関する報告	p.132～133
浜坂町沖水深100mの海底から	
エビこぎ網で得られた魚類	p.134～143

B5版、143ページ（8カラー図版含む）、平成12年3月31日発行

## VII. 自然史図書の収集

当館の資料収集活動の一環として、自然史科学に関係した図書の収集を行っている。その大部分は当館発行物との交換で収集しているものであるが、個人・団体・自治体等からの各種報告書等の寄贈や、購入によるものもある。

普及書的な図書や図鑑類は主として普及センターに配置され、入館者の閲覧と、市民からの各種の相談や質問に使用されている。専門図書は主として各研究室に、調査報告書・逐次刊行物は書庫に配置されている。また各種地図の収集も行っている。これら図書の閲覧や利用の希望が近年増加してきているが、司書が配置されていないため、市民が直接利用できる体制とはれていない。また、コピーサービスについても行っていない。

平成9年度に開始した交換・寄贈による逐次刊行物と寄贈・購入書籍のコンピュータへのデータ入力、平成11年度(1999年度)も、新しく受け入れたものについて引き続きおこない、国内の刊行物については過去に遡及して入力を始めている。平成9年度、平成10年度に当館刊行物バックナンバーの希望調査を行ってきたが、一部、発送が平成11年度になった。

平成11年度中に受け入れ、データ入力をおこなった電子出版物を含む図書は、購入93、交換7、寄贈662(うち557は故林 匡夫氏からの寄贈)の762部で、平成11年度末現在の受入済み収蔵数は、9,583部、交換・寄贈によって受け入れた逐次刊行物と調査報告書は平成11年度に8,114冊、平成11年度末現在の累計124,520冊である。

### 1. 個人・機関からの受贈(交換分は除く、敬称略)

- 個人(順不同、故人を含む)：南 治彦、日浦 勇、林 匡夫、引田 茂、谷角素彦、井上 清、谷 幸三、亀井節夫、久保利夫、道盛正樹、荒本 裕、内山裕之、小郷一三、岡田美恵子、宮武頼夫、太田秀利、西村寿雄、および館員(城山裕司、初宿成彦、藤井伸二)
- 民間団体、出版社、企業など：講談社科学図書出版部、(財)国際花と緑の博覧会記念協会、福音館書店、埼玉昆虫談話会、浅見化石会館、(株)日本デザインクリエーターズカンパニー企画販売部、小学館、住吉大社社務所、1999年地球惑星科学関連学会合同大会組織委員会、福井県植物研究会、滋賀植物同好会、久保和土遺稿集刊行会、創元社
- 政府機関及び自治体など：埼玉県小川町教育委員会、

えりも町郷土博物館、(財)日本科学技術振興財団、千葉県、福生市郷土資料室、石川県門前町教育委員会社会教育課、国立科学博物館教育部、筑紫野市史編纂委員会、兵庫県津名郡北淡町教育委員会、斜里町教育委員会、宇宙開発事業団、(財)科学技術広報財団

### 2. 購入等によるもの

#### ● 図書購入費による購入

平成11年度 114冊 1,372,359円

#### ● 消耗品費による購入

国内雑誌 科学など 9誌 160,820円

外国雑誌 Copeia など8誌 227,556円

[平成11年度購入雑誌]

国内：科学、遺伝、生物科学、海洋と生物、月刊地球、別冊地球、月刊海洋、別冊海洋、岩鋳。

外国：Copeia, Curator, Taxon, Evolution, Pacific Science, Systematic Biology, Geological Magazine, Journal of Paleontology

#### ● 学会への加入による収集

16学会へ団体会員として加入し、会誌を収集した。学会名は以下の通りである。この他にも、多く収集すべき学会が国内外に多数あるが、予算の状況から入会できていないのが現状である。

日本応用動物昆虫学会(日本応用動物昆虫学会誌, Applied Entomology and Zoology)

日本動物学会(動物学雑誌)

日本生態学会(日本生態学会誌)

日本生物地理学会(日本生物地理学会会報)

日本衛生動物学会(衛生動物)

日本魚類学会(魚類学雑誌)

日本植物学会(Journal of Plant Research)

日本遺伝学会(遺伝学雑誌)

日本藻類学会(藻類)

日本陸水学会(陸水学雑誌)

日本地質学会(地質学雑誌)

日本第四紀学会(第四紀研究)

日本古生物学会(Paleontological Research)

日本地学研究会(地学研究)

日本博物館協会(博物館研究)

全国科学博物館協議会(全科協ニュース)

国際トンボ学会(ODONATOLOGICA)

この他、交換により、会誌を受領している学会も多い。

### 3. 文献交換状況

当館発行の研究報告・自然史研究・収蔵資料目録・展示解説・館報および大阪市立自然史博物館友の会発行（当館編集）Nature Study と交換に、国内国外の研究・教育機関と文献交換を行なった。また、各種自治体・団体・個人から調査報告書等の寄贈を受けた。平成11年度に交換・寄贈により入手した逐次刊行物・調査報告書等は、8,114冊である。

#### ■研究報告など出版物の配布

	国 内		国 外	
研究報告 53号	471ヵ所	488冊	458ヵ所	461冊
自然史研究 2巻15号	343ヵ所	349冊	188ヵ所	191冊
収蔵資料目録	239ヶ所	245冊	48ヶ所	49冊
展示解説（特展解説書とミニガイド）	264ヶ所	273冊	0ヶ所	0冊
館報	671ヵ所	678冊	11ヵ所	11冊

第1回配布のみ。通便便の複数部数は加えていない。

### 4. その他

#### ■平成11年度図書館等職員著作権実務講習の修了

期 間：8月25～27日

会 場：岡山大学大学院自然科学研究科会議室

受講修了者：石井久夫

収集した図書資料を有効に活用する方法として、複写物の提供があるが、当館ではコピーサービスを行っていない。著作権法は、著作権を制限する条項のひとつとして第三十一条で図書館等における複製を認めている。当館は大阪市立自然史博物館条例第3条(1)で文献、図書の収集、保管、閲覧を事業として規定しているが、司書が配置されていないため、著作権法施行令第一条の三の図書館資料の複製が認められる図書館等に適合せず、これまで複写物の提供はできなかった。

情報センター開設にともなって当館の文献類の利用も増大が見込まれ、専門図書館としての役割を果たすためには、司書の配置がこれまで以上に強く望まれる。当面の対策として、複写物の提供を可能とするために、上記の学芸員が、文化庁長官の定める著作権に関する講習である図書館等職員著作権実務講習を修了し、著作権法施行規則第一条の二の司書に相当する職員として文部省令で定める職員が置かれている条件を整えた。

#### 【参 考】

##### 著作権法 第五款 著作権の制限

（図書館等における複製）

**第三十一条** 図書、記録その他の資料を公衆の利用に供することを目的とする図書館その他の施設で政令で定めるもの（以下この条において「図書館等」という。）においては、次に掲げる場合には、その営利を目的としない事業として、図書館等の図書、記録その他の資料（以下この条において「図書館資料」という。）を用いて著作物を複製することができる。

- 一 図書館等の利用者の求めに応じ、その調査研究の用に供するために、公表された著作物の一部分（発行後相当期間を経過した定期刊行物に掲載された個々の著作物にあっては、その全部）の複製物を一人につき一部提供する場合

－第二号以下略－

##### 著作権法施行令

（図書館資料の複製が認められる図書館等）

**第一条の三** 法第三十一条（－中略－）の政令で定める図書館その他の施設は、国立国会図書館および次に掲げる施設で図書館法（－中略－）第四条第一項の司書又はこれに相当する職員として文部省令で定める職員が置かれているものとする。

－第一号～第三号略－

- 四 図書、記録その他著作物の原作品又は複製物を収集し、整理し、保存して一般公衆の利用に供する業務を主として行う施設で法令の規定によって設置されたもの

- 五 学術の研究を目的とする研究所、試験所その他の施設で法令の規定によって設置されたもののうち、その保存する図書、記録その他の資料を一般公衆の利用に供する業務を行うもの

－第六号、第二項以下略－

##### 著作権法施行規則

（司書に相当する職員）

**第一条の二** 令第一条の三第一項の文部省令で定める職員は、次の各号のいずれかに該当する者で本務として図書館の専門的事務又はこれに相当する事務（以下「図書館事務」という。）に従事するものとする。

－第一号～第三号略－

- 四 大学又は高等専門学校を卒業した者で、一年以上図書館事務に従事した経験を有し、かつ、文化庁長官が定める著作権に関する講習を修了したもの

－第五号以下略－

# 普及教育事業

## I. 各種普及教育活動

多様な博物館利用者とその要望に応えるため、次のような各種の普及行事を行なっている。今年度は、個別のテーマに即した行事展開と同時に、地域の特色ある自然を総合的に理解する「地域自然誌」シリーズを中心においた、自分の居住地域に対する興味から申し込む参加者などもあり、一定の成果があったと考えている。「地域自然誌」シリーズは、現在建設中の「地域自然誌展示室」のための準備段階の役割ももっている。

観察会のテーマの多様化と参加者数の増加にともない、館外からも講師を招いている（\*印）。また、市民の社会奉仕活動への参加意欲を満ちし、よりきめの細かい普及教育活動を行なうために、ボランティアによる補助スタッフを野外行事等に導入した（\*印）。補助スタッフ制度は、下見を兼ねた事前研修や学習会等をそれぞれの行事について行なうのが特徴で、補助スタッフにとっては少人数制の中身の濃い学習の場として活用されているようである。各種行事はこうした多数の方々の理解と協力によって支えられている。

以下に各行事の記録を、行事名、実施場所、実施月日、参加者数の順に略記する。

### ■やさしい自然かんさつ会

自然史博物館の行事に参加したことのない人を主な対象に、自然のおもしろさを野外で直接体験してもらい、自然に親しむ糸口をつかんでもらうことをねらいとした行事。普及行事の中では初級向け。独自の広報用チラシを作成し、区役所、社会教育施設および当館内で配布し、野外活動に参加したことのない新しい層の開拓に努めた。

昨年までと同様、大きく定員を超過している状態が続いており、同一行事を複数回開催するなどの対策を講じている。また、補助スタッフの導入により、安全と教育効果の両面を確保しながらも大人数での行事を行うことが可能になっている。

「海べのしぜん」\*、\*\* 岬町長崎海岸

4月18日 申込 625名（当選 625名） 雨天中止  
「レンゲ畑の生き物」\*、\*\* 高槻市、奈良県御所市

4月25日 申込 721名（当選 310名）参加者 166名  
「バッタのオリンピック」\*\* 枚方市淀川河川敷

10月10日 申込 166名（当選 108名）参加者 69名  
「木の実あそび」 豊能町

10月24日 申込 164名（当選 164名）参加者 64名  
「化石さがし1」 泉佐野市

11月28日 申込 255名（当選 111名）参加者 85名  
「テントウムシ」\* 淀川三川合流

12月26日 申込 215名（当選 215名）参加者 77名  
「水鳥の観察会」\* 伊丹市昆陽池

1月23日 申込 135名（当選 135名） 雨天中止  
「化石さがし2」 泉佐野市

2月6日 申込 66名（当選 66名） 雨天中止  
7テーマ5回実施 延べ参加者数 461名

### ■地域自然誌シリーズ

大阪をとりまく地域を歩き、その地域の自然をさまざまな分野の観点から観察し、自然の特徴とそこを利用する人との関わりについて総合的に考えることを目的とした行事。普及行事の中では中・上級向け。今年度は主に大阪府下で多数開催した。行事で利用した各観察地は、計画中の「地域自然誌展示室」で自然観察ポイントとして紹介していく予定である。

「淀川・鶴殿の自然」 高槻市

4月11日 申込 138名（当選 138名）参加者 63名  
「孝子」\* 岬町

5月30日 申込 81名（当選 81名）参加者 65名  
「岩湧山」 河内長野市

6月6日 申込 70名（当選 70名）参加者 46名  
「竜仙峡1」 茨木市

6月13日 申込 112名（当選 81名）参加者 47名  
「稲谷」 貝塚市

6月27日 申込 148名（当選 102名） 雨天中止  
「水無瀬」\* 島本町

7月4日 申込 78名（当選 78名）参加者 52名  
「側川溪から槇尾山」 和泉市

7月11日 申込 80名（当選 67名）参加者 49名  
「京都疏水」 京都市左京区

9月26日 申込 100名（当選 52名）参加者 33名  
「くろんど池」\* 交野市

11月7日 申込 67名（当選 67名）参加者 52名  
「竜仙峡2」 茨木市

11月21日 申込 61名（当選 61名）参加者 41名  
9回実施 延べ参加者数 448名

## ■テーマ別自然観察会

自然の中の諸事象からテーマと対象をしばって観察することで、自然に対する理解をより深めようとする行事。学芸員の専門分野を基礎にしたテーマが多く、さらに掘り下げた学習機会の提供を可能にしている。

「春の渡り鳥の観察会」\* 大阪市長居公園

4月24日(土) 申込 78名(当選 61名) 参加者 48名

「兵隊虫さがし」\* 大阪市住之江区

5月29日(土) 申込63名(当選 63名) 参加者 40名

「ハチとハチの巣さがし」 八尾市

10月3日 申込 29名(当選 29名) 参加者 27名

「秋の渡り鳥の観察会」 大阪市長居公園

10月17日 申込 56名(当選 56名) 参加者 49名

「豊国崎の和泉層群」 岬町

10月31日 申込 88名(当選 57名) 参加者 37名

「冬鳥の観察会」 大阪市長居公園

2月20日 申込 67名(当選 67名) 雨天中止

「セミの幼虫さがし(山編)」\* 高槻市ジャラ畑谷

3月12日 申込 120名(当選 60名) 雨天中止

5回実施 延べ参加者数 201名

## ■室内実習

生物・化石などを材料に、博物館に備え付けの研究機器を活用しながら、野外では行なえない分析的な観察・実習を体験することにより、自然に対する理解をより深める行事。博物館設備の関係から希望者の多い場合は抽選せざるを得なかった。普及行事の中では上級向け。

「はちみつ」\*\*

11月14日 申込 25名(当選 25名) 参加者 24名

「カヤツリグサ科の解剖」

12月26日 申込 5名(当選 5名) 参加者 5名

「植物のつくり」\*

2月6日 申込 31名(当選 24名) 参加者 22名

「魚のからだ」\*

2月27日 申込 9名(当選 9名) 参加者 6名

「キノコ」\*

3月5日 申込 25名(当選 25名) 参加者 20名

5回実施 延べ参加者数 77名

## ■長居植物園案内

植物園案内では現在、携帯型実体顕微鏡による観察を行っている。参加者が多いため、このような観察の手引き

には、補助スタッフの存在が不可欠となっている。また補助スタッフにより、自主的に行事での学芸員の解説の記録が発行され、参加者の学習効果を高めることができた。

4月3日(土)\* 74名

5月1日(土)\* 93名

6月5日(土)\* 92名

7月3日(土)\* 42名

8月7日(土)\* 47名

9月4日(土)\* 72名

10月2日(土)\* 72名

11月6日(土)\* 76名

12月4日(土)\* 66名

1月15日(土)\* 73名

2月5日(土)\* 80名

3月4日(土)\* 40名

12回実施 延べ参加者数 827名

## ■科学映画会

毎月第2土曜(午後2時)、翌日曜(午前11時・午後2時)実施で、1プログラムにつき合計3回を当館講堂にて上映。土曜日の実施は1993年より始めた。上映とあわせて当館学芸員が簡単な解説を行なっている。今年度は、12月から3月までの展示の閉館期間中には、実施しなかった。

4月10, 11日 ムーンジェリー

—ミズクラゲのライフサイクル— 92名

5月8, 9日 火山列島日本 —噴火予知への挑戦—

130名

6月12, 13日 昆虫たちのいろいろな産卵法 323名

7月10, 11日 ビデオ科学館 — ミツバチ 166名

8月14, 15日 オシドリ 幻の巣立ち! 243名

9月11, 12日 ビデオ科学館 — アゲハチョウ 282名

10月9, 10日 森林は生きている 森の生物たち 158名

11月13, 14日 藻場 —魚たちのゆりかご— 174名

3月11, 12日 雑木林の四季 —親と子の散歩道—

123名

9回実施 延べ観覧者数 1,691名

## ■自然史講座

当館学芸員が自らの調査・研究の成果をもとに自然史科学に関する話題を市民に普及する講演会。当館集会室で毎月第3土曜日の午後3時～4時30分に開催した。近年は参加者が増加し、自然に関する学習機会の需要が高まってい

るように思える。集会室の定員（50～60名）では充分に対応できないほど多数の参加があることも珍しくない。

4月10日 三瓶山の縄文時代埋没林と年輪年代学

那須孝悌 47名

5月20日 岸和田市で見つかったワニ化石

樽野博幸 49名

6月12日 紀伊半島東部の四万十帯

—現地性緑色岩はあるか？—

川端清司 45名

7月10日 クマバチの生活史の謎 岡本素治 58名

8月14日 旅をする蝶・アサギマダラ 金沢 至 85名

9月11日 大阪で繁殖する鳥 和田 岳 70名

10月9日 干潟の貝と平野地下の化石の貝

石井久夫 41名

11月13日 ハチの世界をのぞいてみれば

松本吏樹郎 56名

12月11日 淀川の汽水域と干潟

—底生動物を中心に— 山西良平 48名

1月8日 ヨーロッパの自然史博物館をまわって

波戸岡清峰 60名

2月19日 地層は私たちに何を訴えているのか！

中条武司 59名

3月11日 長居の地下に分布する地層

石井陽子 54名

12回実施 延べ参加者数 672名

## ■標本同定会

子どもたちが夏休みに採集して作成した標本について、その名前を教える行事。生物の名前を知ることにより、自然をより身近なものとしてとらえ、探求心を育てることをねらいとしている。館外から多数の専門家の協力を得て、毎年8月下旬に実施している。1999年は8月29日（日）に実施した。昨年度に比べて件数で22件（参加者数は同数）増加した。

同定件数

昆虫（クモなどを含む） 42件

植物（菌類を含む） 39件

貝・その他の動物 34件

岩石・鉱物 13件

化石 19件

計 147件 （参加者245名）

当館が長居に移転してから現在までの標本同定会での同定件数の変遷を分析してみると興味深い事実が明らかになってきた。1980年頃には総同定件数は300件を超えており、特に植物分野が多かった。現在は当時の半数程度に減少して安定している（図7）。しかし、すべての分野で平均的に減少したのではなく、植物分野の同定件数が極端に減ったことが原因である。他の分野は、1980年当時とほとんど変わらない数字を維持している。植物分野の減少の原因は、標本採集を宿題に出す先生がいなくなったことによっていられる。宿題として強制された標本採集に対して、

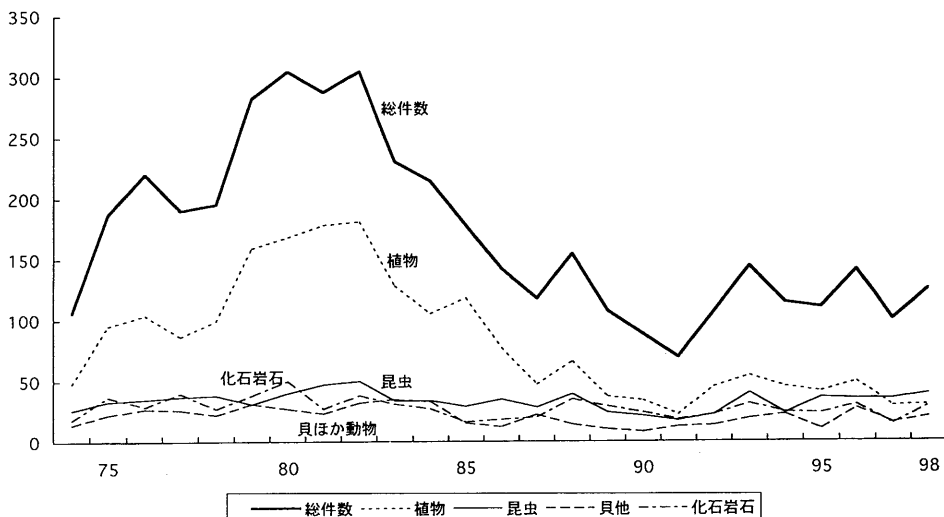


図7. 標本同定依頼件数の変遷

子供たちが最も取っつきやすかったのが植物採集であった、ということなのであろう。このデータは、自発的な標本採集の伝統は脈々と生きており、我々の工夫と取り組み方しだい、子供たちの目をもっと自然へ向かわせるための手段として標本採集を復活させることができる可能性を示しているのかもしれない。

## ■生涯学習フェスティバル

第8回大阪市生涯学習フェスティバルが大阪市生涯学習フェスティバル実行委員会主催（後援大阪市教育委員会他）により11月20日、21日の両日に大阪市の中之島公園で開催された。教育委員会の依頼により、当館の普及活動と友の会をPRするためのパネル展示を行った。

## ■講演会

### 1. 特別展普及講演会

日時：8月22日（日）

会場：自然史博物館 講堂

演題・講師：

「ハチに擬態 ー東アジアのスカシバガ類ー」

有田 豊氏（名城大学教授）

「東南アジアの蝶たち」

福田晴夫氏（日本蝶類学会会長）

参加者：84名

### 2. 地球科学講演会（共催：地学団体研究会大阪支部）

「大阪を囲む山々のおいたち」

日時：2000年3月5日（日）

講師：田結庄良昭氏

（神戸大学発達科学部自然環境論地球環境研究室）

会場：自然史博物館講堂

参加者：226名

## ■ドキドキ子ども自然史ウォッチング

社会教育施設の無料解放により、博物館の利用機会の増した小中学生対象に1995年から実施している。展示だけでなく、研究施設・収蔵施設などを含めた館内見学や実習により、博物館と自然史科学に親しむきっかけを作ることを目的としている。冬の小学生向けの「博物館たんけんコース」、夏の中学生向けの「学芸員体験コース」いずれも大阪市内の小中学校全生徒に配付される広報誌「タッチ」に掲載され、幅広い応募がある。収蔵施設などの見学の安全確保、実習の進行などには補助スタッフの協力におうとこ

ろが大きい。

### 1. 博物館たんけんコース（小学生向け）\*

裏方（実験室や収蔵庫など）を中心とする館内見学とスクラッチカードによる展示見学。ふだんは見ることのできない博物館の施設を学芸員の具体的な仕事内容とともに紹介する。博物館を身近で親しみやすいものとして感じ、自然史についての興味を育てることをねらいとしている。1月8日、9日の2日間に渡って2回実施した。申込総数118名

第1回 1月8日（午後） 参加者47名

第2回 1月9日（午後） 参加者45名

延べ参加者数 92名

### 2. 学芸員体験コース（中学生向け）\*

3日間連続の実習。オリエンテーションののち、学芸員があらかじめ用意した課題（マルムシ・ハチ・カメの3課題から選択）に基づき、学芸員と補助スタッフの指導のもと長居公園で野外調査を行い、この結果をまとめ、展示として作成した。

自分の目と手で調べた調査を展示として作成、発表することで、自然に対する探究心と科学的な観察力を育てることをねらいとしている。また学芸員の仕事と博物館の活動を体験的に理解してもらおうプログラムとしても位置付けている。1998年からこの形式で実施している。

今年度は、10月と12月に、それぞれ同窓会および遠足として、行事参加者が再び集まる機会をつくった。比較的多くの参加があり、3日間の行事で友達ができたことによって、その後の行事へも定着する傾向が伺え、今後の中高校生対象の行事を企画する上での、参考となった。

8月18～20日 申込31名（当選31名） 参加者28名

10月31日 参加者18名

12月23日 参加者21名

## ■高校生シリーズ

従来より普及行事への中高生の参加が少ないことが問題とされていた。それを克服するべく、高校の教員との懇談の機会（1999年2月20日）を持った中で、高校生は親子連れや年配者と一緒の行事には参加しないとの指摘を受けた。そこで試みとして、高校生だけを対象とする行事を企画した。

広報が充分行えなかったこともあり、参加状況は芳しくなく、多くの課題を残した。

「ツバメの集団ねぐらの観察会」 大阪市東淀川区

## 普及教育事業

7月24日	申込10名(当選10名)	参加者 9名
「博物館の裏方見学&電子顕微鏡体験」		
8月24日	申込18名(当選18名)	参加者 8名
「ビルの谷間で化石をさがそう」 大阪市中央区		
9月25日	申込 2名(当選2名)	参加者 1名
「はじめてのキノコ狩り」		
10月23日	申込 0名	中止
3回実施 延べ参加者数 20名		

### ■補助スタッフ研修

1995年度から友の会による補助スタッフ制度を導入した。補助スタッフ事業の運営は当館の事業の最もよく理解者である「友の会」に委託し、会員より募集を行なっている。行事实施に必要な知識・技術会得のために、行事のテーマと内容に応じて当館学芸員による事前研修、勉強会、打ち合わせ、企画会議、事後研修等を行なった。補助スタッフは、こうした研修を通して自身の学習に積極的に取り組み、その成果を社会に還元しようとする方々であり、当館の普及事業の一翼を支えている。行事内容に即した多様な興味を反映し、補助スタッフ参加者も広範になっている。このことは、補助スタッフ研修が「魅力ある学習の機会」として認知されていることを示し、この意味でも改めてこの事業が当館の普及活動の大きな柱となっていることが示される。1999年度は、研修を延べ28回開催し、これを受講した人たちは延べ184名に達する。このことから研修制度は当博物館の普及教育プログラムとして重要な位置を占めていることがわかる。

以下に補助スタッフ研修について、行事名、研修の開催日、場所、受講人数の順に略記する。なお、各行事の実施日については上述の普及行事の項を参照。

海べのしぜん	4月17日	岬町	25名
春の渡り鳥	4月17日	長居植物園	4名
レンゲ畑のいきもの	4月23日	当館	3名
兵隊虫さがし	5月20日	大阪市内	1名
兵隊虫さがし	5月26日	大阪市内	2名
孝子	5月22日	岬町	4名
水無瀬	6月26日	島本町	12名
キノコ	7月26日	東大阪市	6名
キノコ	2月28日	当館	8名
くろんど池	10月23日	交野市	7名
水鳥	1月10日	伊丹市	4名

植物のつくり	2月5日	当館	6名
セミの幼虫さがし	6月19日	当館	5名
セミの幼虫さがし	2月26日	高槻市	4名
ドキドキ探検コース	12月25日	当館	6名
ドキドキ体験コース	8月8日	当館	8名

植物園案内	4月1日	長居植物園	9名
植物園案内	5月6日	長居植物園	7名
植物園案内	6月3日	長居植物園	9名
植物園案内	7月1日	長居植物園	6名
植物園案内	8月5日	長居植物園	6名
植物園案内	9月2日	長居植物園	7名
植物園案内	10月7日	長居植物園	8名
植物園案内	11月4日	長居植物園	5名
植物園案内	12月2日	長居植物園	6名
植物園案内	1月6日	長居植物園	3名
植物園案内	2月3日	長居植物園	7名
植物園案内	3月3日	長居植物園	6名

### ■インターネットを利用した普及活動

博物館では1997年度からインターネットシステムを導入し、研究活動に利用すると共にホームページなどを利用した市民への情報発信と学習機会の提供を行なっている。ホームページは1997年7月の開設以来、その内容は飛躍的に拡充され、市民からの関心も増している。開設以来1999年度末までに延べ64,000人を越える閲覧者があった(1999年度だけで延べ約31,000人)。市民からの質問に対する自然史に関する情報提供や標本・資料の公開なども行われている。1998年度からは電子メールを利用した自然史情報の交換の場としてメーリングリスト[omnh]を開設した。2000年3月31日現在で186名の参加者が登録され、様々な自然観察の報告や質問などに活発に利用されている。1999年度には、3,324通のメールがやり取りされた。

### ■マスコミへの掲載・出演

当館の特別展や普及事業などがマスコミに取り上げられる機会は多いが、それ以外にも、学芸員が取材に応じたり、直接出演したりすることが、自然史博物館の普及教育事業として大きな役割を果たしている。これまで記録を残してこなかったため不完全であるが、平成11年度(一部10年度)について明らかな分のみ掲載する。

【】内は関連する展示会や普及行事。

● 新聞

「関西そぞろ歩き 大阪市立自然史博物館」

日経新聞, 1998年11月20日

「行ってみよう博物館・資料館」

朝日新聞, 1998年12月8日

「変わり種『カワチスズシロソウ』自然史博物館

学芸員が発見」 朝日新聞, 4月15日

「兵隊虫さがし」朝日新聞, 6月5日, 【兵隊虫さがし】

「街中の化石」 朝日新聞, 6月29日

「蝶や蛾の生活 標本などで紹介」産経新聞, 8月7日

「美しいものには毒」読売新聞, 8月24日, 【特別展】

「蝶と蛾の特別展」 読売新聞, 8月24日, 【特別展】

「蝶影は薄く」 読売新聞, 9月1日, 【特別展】

「昆虫, 植物 名前教えて」

読売新聞, 8月30日, 【標本同定会】

「『渡り』をする蝶アサギマダラ」

朝日サイアス, 12月1日, 【特別展】

「ドタバカのはく製公開, 翼竜骨格レプリカも」

産経新聞, 2月28日, 【新収資料展】

● テレビ出演

「街中で化石探検」(川端)

テレビ大阪しあわせ満点テレビ, 1999年7月19日

「標本の作り方」(岡本・初宿)

朝日放送ナイトインナイト, 8月17日

「ビルで化石」(川端)

NHKニュースパーク関西, 10月12日

「白いゴキブリ」(初宿)

朝日放送探偵ナイトスクープ, 10月22日

「秋に鳴くセミ」(初宿)

朝日放送探偵ナイトスクープ, 12月24日

● ラジオ出演

「街中で化石発見」(川端)

NHKネットワークにっぽん関西, 1999年9月22日

「大阪市内の鳥について」(和田)

ラジオ大阪桂九雀のワイワイじゃーなる,

2000年3月31日

の会計年度は1～12月で, 博物館とは独立した組織として運営されている。

友の会では, 博物館主催の行事とは別に, 計17回の友の会主催行事を企画し, 延べ777名の会員とその家族が参加した。友の会行事では, 自然観察と同時に会員相互の交流・会員と評議員や学芸員との交流が行われている。また, 「セミのぬけがらしらべ」では, 都市公園におけるセミの発生について継続データの収集を行っている。会員数は, はじめて2,000名を突破した。今後行事などをますます充実させていく必要があると考えている。

■ 庶務

1. 1999年度の会員数は2,058名(1年会員1,882名, 半年会員157名, 購読会員4名, 賛助会員15名)。前年度は1,922名(1年会員1,742名, 半年会員179名, 賛助会員1名)でした。昨年2000年度の目標として掲げた会員2,000名を達成。1998年度賛助会員:(株)新興出版社啓林館, 志村研太郎, 浦野動物病院, 追手門学院中高生物科, 浅葉 清, 高井悦子, 山下良寛, 山本 章, 大宮文彦, 田村美美子, 寺島久雄, 萩原 寛, 高橋 泰章, 高橋 正, 大阪市立環境学習センター(順不同, 敬称略)。
2. 5回の評議員会を開き, 会の事業・庶務等について審議した。
3. 昨年度に引き続き友の会経営問題検討委員会を2回開き, 将来にむけての友の会運営面・財政面について話をもった。今年度からの会計を二部制度に改める方針を決めた。2000年度は, 友の会の特定非営利法人格取得について検討を行う。

■ 役員

会 長: 粉川昭平

副会長: 西川喜朗・那須孝梯

評議員: 道盛正樹(庶務), 田代 貢(庶務), 浦野信孝(庶務), 白木江都子(事業), 春沢圭太郎(事業), 桂孝次郎(事業), 細井孝昭(事業), 鍋島靖信(事業), 村井貴史(事業), 杉浦真治(事業), 左木山祝一(会計), 花岡皆子(会計), 山下裕子, 梅原 徹, 六車恭子, 堀田 満

会計監査: 上田俊穂・津田 滋

■ 事務職員

玄甫貴子(大阪市教育振興公社嘱託職員)

II. 大阪市立自然史博物館友の会

自然史博物館友の会は, 博物館を積極的に利用して, 自然に親しみ, 学習しようとする人たちの会である。友の会

## ■事業

## 1. 行事

14回の行事を実施し（計画17回，中止3回），延べ777名の会員とその家族が参加した。

(1) 総会 1月31日（日） 自然史博物館 220名

(2) 1泊観察会

「吉野川の干潟と湿地

～ウォーキング&ウォッチング～

5月2日～3日 34名

(3) 合宿「西表島」 沖縄県八重山郡竹富町西表島

7月30日～8月1日 56名

(4) 「昆虫採集入門講座」

京都北山の安曇川の源流（滋賀県境）

5月22日～23日 41名

(5) 「韮公園セミのぬけがらしらべ'99」 韮公園

9月5日（日） 47名

(6) 友の会のつどい

12月19日（日） 94名

(7) 月例ハイキング（第3日曜日）

1月17日「妙見山」 30名

2月21日「蕎原（そぶら）」 35名

3月21日「生駒山」 33名

4月18日「早春の岩湧山」 雨天中止

5月16日「大野山」 51名

6月20日「大和葛城山」 37名

7月18日「金剛山」 雨天中止

8月15日「比良山八雲ヶ原」 雨天中止

9月19日「梶谷」 27名

10月17日「大文字山と京都盆地の地形」 43名

11月21日「鶴殿」 29名

（12月は友の会の集いに振り替えて実施）

## 2. 刊行・製作など

(1) Nature Study 誌45巻1号（通巻536号）～12号（通巻547号）を発行。このうち1月号と7月号の表紙をカラー印刷とした。

(2) ミニガイド「けものの歯」の増刷

(3) ひも付きボールペンの追加製作

(4) 自然観察地図（廉価版）の増刷

(5) 入会勧誘チラシの製作・配布。

## 3. その他の事業

(1) 昆虫採集入門講座・中級編として以下の事業を計画・実施した。

1999年6月27日「大野山のアブ」雨天中止

共催：双翅目談話会

1999年10月17日「信太山でアカトンボを調べよう」

27名

共催：関西トンボ談話会

(2) 博物館のボランティア推進事業の委託を受け、会員から募集した補助スタッフ・リーダーにより、博物館行事の運営補助を行い、博物館事業に協力した（詳細は以下）。

## ■1999年度補助スタッフ事業

補助スタッフ事業は、多くの会員の協力によって運営されている。会員の方々に謝意を表するとともに、以下に行事名、行事実施日と補助スタッフ人数の順に列記する。なお、補助スタッフを募集したが行事が雨天中止となったものは省略した。（研修実施日については30ページを参照）

やさしい自然かんさつ会

レンゲ畑のいきもの 4月25日 3名

テントウムシ 12月26日 8名

地域自然誌シリーズ

孝子 5月30日 3名

水無瀬 7月4日 14名

くろんど池 11月7日 9名

テーマ別自然観察会

春の渡り鳥 4月24日 4名

兵隊虫さがし 5月29日 3名

室内実習

植物のつくり 2月6日 6名

魚のからだ 2月27日 1名

キノコ 3月5日 4名

長居植物園案内

4月1日 9名

5月6日 7名

6月3日 7名

7月1日 6名

8月5日 6名

9月2日 6名

10月7日 8名

11月4日 4名

12月2日 6名

1月6日 3名

2月3日 5名

---

3月3日 6名

ドキドキ子ども自然史ウォッチング

博物館探検コース 1月8日・9日 各6名

学芸員体験コース 8月18日～20日 各8名

10月31日 6名

12月23日 4名

合計 のべ174名

### Ⅲ. 博物館実習生の受入れ

本年度は下記の25名の学生を受け入れた。

中条忠寛，大久保綾子（神戸大），中田有紀，原田敏徳，  
林 美明子，堤 文希，銭 祥富（大阪市立大），宇都宮  
真木（大阪府大），藤森摩利子，橋本拓也，福家多恵子  
（追手門学院大），赤峯真由美，加藤咲子，嶋田久美子（奈  
良女子大），石園夕希子（京都橘女子大），酒井美都穂，黒  
野由樹子，堀内康晴（京都教育大），福中理絵，小椋健二，  
秋山陽子（京都府立大），橋本昌美（大阪学院大），上山量  
子（大阪教育大），向山 直（琉球大），大平原寛（東京都  
立大）。

平成11年度（1999年度）普及行事，特別展，特別陳列，友の会行事一覧表

行事月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
やさしい自然 かんさつ会	25. レンゲ畑 18. 海べのし ぜん(中止)						10. パッタ 24. 木の実	28. 化石が し	26. テントウ ムシ	23. カモ (中止)	6. 化石が し(中止)	
地域自然誌 シリーズ	11. 鶴殿	30. 孝子	6. 岩通山 13. 彦仙峡 27. 柜谷 (中止)	4. 水無瀬 11. 猿尾山		26. 京都減水		7. くろんど 池 21. 竜仙峡				
テーマ別 自然観察会	24. 長居の鳥	29. 兵隊虫					3. ハチ 17. 長居の鳥 31. 豊国崎				20. 長居の鳥 (中止)	12. セミの幼 虫さがし (中止)
室内実習								14. ハチミツ	26. カヤツリ グサ		6. 植物のつ くり 27. 魚	5. キノコ
植物園案内 (第1土曜)	3	1	5	3	7	4	2	6	4	15 (第3土曜)	5	4
自然史講座 (第2土曜)	10	8	12	10	14	11	9	13	11	8	19	11
特別行事					18~20. ドキドキ 中学生 22. 特南普及 講演会 30. 標本同定 会		31. ドキドキ 中学生 同窓会		23. ドキドキ 中学生 遠足	8~9. ドキドキ 小学生		5. 地球科学 講演会
高校生向け 行事				24. ツバメね ぐら	24. 博物館裏 方見学 会	25. ビル化石	23. キノコ狩 り					
科学映画会	10. 11	8. 9	12. 13	10. 11	14. 15	11. 12	9. 10	13. 14				11. 12
展 示	3 / 20. ←…特別…→30.	7. ←…特別「海をわたった蝶と蝶」…→11.										
友の会		2. 3 1. 泊観察会 (吉野川) 22. 23 昆虫採集入 門講座 (京都北山)	27. 昆虫採集 入門講座 中級編 アブ (中止)	30~1 台宿 (西森島)		5. セミぬけ がら	17. 昆虫採集 入門講座 中級編 アブ カトンボ (信太山)		19. 秋のつど い	30. 友の会 総会		
月例ハイ キング (第3日曜)	18. 雨天中止	16. 大野山	20. 大和葛城 山	18. 雨天中止	15. 雨天中止	19. 柜谷	17. 大文字山 と京都盆 地の地形	21. 鶴殿		16. 二上山	20. 雪で中止	19. 雨天中止

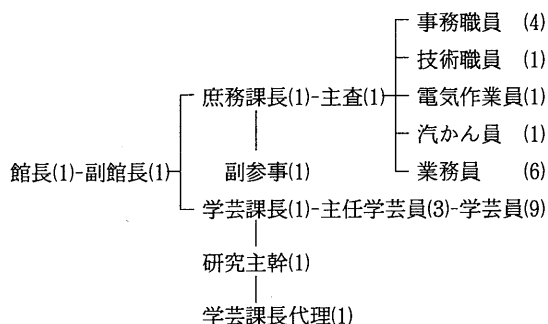
## I. 沿革

昭和24年11月8日－自然科学博物館開設準備委員会設置  
 昭和25年4月1日－自然科学博物館費予算に計上  
 昭和25年11月10日－市立美術館2階廊下において展示開設  
 昭和27年4月17日－博物館相当施設に指定  
 昭和27年6月2日－大阪市立自然科学博物館条例および規則制定  
 昭和27年7月10日－博物館法第10条により登録（第2号）  
 昭和27年10月1日－筒井嘉隆 館長に就任（39. 7. 4 退任）  
 昭和32年6月7日－市立美術館より西区靱2丁目（元靱小学校校舎改造）に移転  
 昭和33年1月13日－開館  
 昭和34年 ー新館建設について本市社会教育審議会の意見具申  
 昭和39年 ー日本育英会の第一種奨学金の返還を免除される職を置く研究所に指定（文部省）  
 昭和39年8月1日－筒井嘉隆 館長に就任（非常勤嘱託－40. 7. 31 退任）  
 昭和40年8月1日－千地万造 館長に就任（58. 6. 1 退任）  
 昭和42年 ー大阪市総合計画局“30年後の大阪の将来計画”により長居公園内に新館敷地確定  
 昭和44年8月 ー新館建設のための基本構想審議委員会組織  
 昭和45年4月 ー自然史博物館建設委員会組織  
 昭和47年1月21日－自然史博物館建設工事着工  
 昭和48年3月31日－自然史博物館建設工事竣工  
 昭和48年4月1日－旧館閉館  
 昭和48年7月 ー新館へ移転開始並びにディスプレイ契約締結（竣工49年3月）  
 昭和49年4月1日－大阪市自然史博物館条例公布  
 昭和49年4月26日－自然史博物館開館式挙行  
 昭和49年4月27日－開館  
 昭和51年8月19日－文部省科学研究費補助金取扱規定第2条第4号に規定する学術研究機関として指定  
 昭和58年7月1日－千地万造 館長に就任（非常勤嘱託－

61. 3. 31 退任）  
 昭和59年6月 ー常設展更新基本計画案策定  
 昭和60年3月 ー常設展更新計画書策定  
 昭和61年3月31日－常設展更新業務完成  
 昭和61年4月1日－新装開館  
 昭和61年4月1日－小川房人 館長に就任（兼務－2. 3. 31 定年退職）  
 昭和61年4月1日－千地万造 顧問に就任（非常勤嘱託－2. 3. 31 退任）  
 平成2年4月1日－小川房人 館長に就任（非常勤嘱託－3. 3. 31 退任）  
 平成2年度 ー文化施設整備構想調査  
 平成3年4月1日－小川房人 顧問に就任（非常勤嘱託－5. 3. 31 退任）  
 柴田保彦 館長兼学芸課長に就任（4. 3. 31 定年退職）  
 平成3・4年度 ー自然史博物館整備構想調査事業  
 21世紀に向けての館のあり方・問題点の改善策の調査  
 平成4年4月1日－柴田保彦 館長に就任（非常勤嘱託－7. 3. 31 退任）  
 平成7年4月1日－宮武頼夫 館長に就任（9. 3. 31 定年退職）  
 平成7年度 ー自然史博物館・長居植物園付帯施設整備構想委員会設置  
 平成8年度 ー展示更新基本設計及び（仮称）花と緑と自然の情報センター設計検討  
 平成9年4月1日－宮武頼夫 館長に就任（嘱託－10. 3. 31 退任）  
 平成9年度 ー展示更新実施設計及び増築にかかる基本・実施設計  
 平成10年4月1日－那須孝悌 館長に就任  
 平成10年10月 ー（仮称）花と緑と自然の情報センター建築工事着工

## Ⅱ. 組 織

### ■職員数（平成12年4月27日現在）計33名



### ■職員名簿（平成12年4月27日現在）

職 種	氏 名	職 種	氏 名
館 長	那須 孝悌	学芸課長	岡本 素治
副 館 長	嵯峨山淳二	研究主幹	樽野 博幸
庶務課長	小林 昌昭	学芸課長代理	山西 良平
庶務課副参事主査	村上 達之	主任学芸員	石井 久夫
庶務課主査	木村 玲子	〃	金沢 至
事務職員	和田 健治	〃	川端 清司
〃	清水久美子	学芸員(植物)	藤井 伸二
〃	中野 剛志	学芸員(動物)	波戸岡清峰
〃	西田 良司	学芸員(地史)	塚腰 実
技術職員	谷 勝文	学芸員(昆虫)	初宿 成彦
汽かん員	吉田 義昭	学芸員(動物)	和田 岳
電気作業員	平岡徳治郎	学芸員(植物)	佐久間大輔
業務員	高橋 明子	学芸員(四紀)	石井 陽子
〃	大西 妙子	学芸員(四紀)	中条 武司
〃	古岡 武	学芸員(昆虫)	松本吏樹郎
〃	泉澤 英男		
〃	田端 健二		
〃	木嶋 正弘		

### ■人事異動

平成12年3月31日 川端 保夫 定年退職  
 4月1日 吉田 義昭 婦人会館より転入  
 4月14日 村上美恵子 給与課へ転出  
 木村 玲子 科学館より転入  
 4月27日 城山 裕司 整備課へ転出  
 中野 剛志 新規採用

## Ⅲ. 庶務日誌

### ■平成11年度 博物館関係者来訪

11. 7. 14 三重県立博物館長他2名博物館活動等について視察
7. 14 岡山県津山市長他1名施設運営管理について視察
10. 8 群馬県立自然史博物館職員1名普及事業全般について視察
11. 5 韓国木浦市職員6名自然史博物館建立のため視察
9. 7 JICA研修員(ペルー国外7ヶ国)8名視察
12. 3. 2 東京都高尾自然科学博物館1名企画展ボランティア等について視察

## IV. 決算

■平成9年度～平成11年度（人件費を除く）

（単位 千円）

		事 項	平成9年度 決 算	平成10年度 決 算	平成11年度 決 算
歳入	第1部	入 館 料 ほ か	15,398	14,114	12,432
		雑収（展示解説等売却代）	1,526	1,549	1,760
		国 庫 補 助 金	0	0	0
	第 1 部 計		16,924	15,663	14,192
歳出	第1部	常 設 展 覧 事 業	2,674	5,148	2,594
		特 別 展 覧 事 業	6,107	5,581	5,911
		調 査 研 究 事 業	8,445	8,916	8,707
		資 料 収 集 保 管 事 業	4,041	4,768	5,295
		普 及 教 育 事 業	2,691	4,032	2,822
		充 実 活 性 化 事 業	3,317	3,447	3,051
		一 般 維 持 管 理 費	77,160	73,486	66,383
		小 計	104,435	105,378	94,763
	第2部	館 蔵 品 整 備 事 業	17,180	15,860	15,860
		研 究 機 器 整 備 事 業	3,948	2,680	0
		施 設 整 備 事 業	10,210	12,658	22,355
		自然史博物館増築・「(仮称)花と緑と自然の情報センター」建設※	260,000	818,956	984,397
		小 計	291,338	850,154	1,022,612
	第 1 部 ・ 第 2 部 合 計		395,773	955,532	1,117,375

（※9年度については展示更新実施設計及び増築にかかる基本・実施設計）

V. 入館者数（平成11年度）

区分 月	有 料				無 料							計	開館 日数
	個 人		団 体		団 体				個 人				
	大 人	高・大	大 人	高・大	中学生	小学生	幼・保 育園等	養護学 校・他	団 体 引率者	中学生 以 下	優 待・招 待・その他		
(11) 4	3,912	125	63	113	220	5,911	2,377	57	530	4,568	2,742	20,618	26
5	6,988	307	198	121	281	13,849	1,378	62	1,015	6,882	3,034	34,115	26
6	2,864	453	0	92	182	411	1,720	49	292	2,769	1,376	10,208	25
7	2,467	1,070	22	773	27	37	447	46	73	3,055	1,033	9,050	27
8	4,934	2,251	82	160	0	24	72	56	13	6,511	1,882	15,985	26
9	2,704	306	0	163	13	211	36	268	71	3,606	1,491	8,869	25
10	3,092	247	176	59	313	11,893	1,304	114	852	3,778	1,743	23,571	27
11	2,717	187	207	54	819	911	996	145	269	3,541	1,692	11,538	24
12	工事の為休館												
(12) 1													
2													
3	3,440	163	98	153	984	692	1,141	33	247	4,321	1,643	12,915	26
計	33,118	5,109	846	1,688	2,839	33,939	9,471	830	3,362	39,031	16,636	146,869	232

■団体観覧内訳（平成11年度）

区 分	市 内		市 外		計	
	件 数	人 数	件 数	人 数	件 数	人 数
幼 稚 園・保 育 所	78	4,948	61	4,523	139	9,471
小 学 校	115	12,560	252	21,379	367	33,939
中 学 校	19	2,209	14	630	33	2,839
養 護 学 校・他	23	411	15	419	38	830
団 体 引 率 者		1,569		1,793		3,362
高 校 生	3	217	9	968	12	1,185
大 学 生	2	205	4	298	6	503
一 般	6	497	5	349	11	846
計	246	22,616	360	30,359	606	52,975

■特別展入館者数

I (平成5年度～6年度)

種別 年度	個 人			団 体			無 料			合計	開催期間	日数	タ イ ト ル
	大人	高・大	小人	大人	高・大	小人	優待・招待	幼・保等	土日祝小中生				
5	15,991	5,529	2,585	346	1,426	5,673	3,412	11,815	—	46,777	8. 7～10. 11	55	5億年の歴史 —近畿地方のおいたちを さぐる—
6	8,355	3,802	1,280	252	393	4,237	2,296	588	5,911	27,114	8. 6～10. 10	55	琵琶湖 —おいたちと生物—

II (平成7年度～11年度)

種別 年度	個 人				団 体			合計	開催期間	日数	タ イ ト ル
	大 人	高・大	優待・他無料	中学生以下無料	大 人	高・大	中学生以下他無料				
7	8,404	3,782	2,799	10,775	99	568	2,945	29,372	8. 5～10. 8	55	ゾウのきた道 —日本のゾウ化石—
8	12,343	3,210	3,795	12,951	216	192	2,499	35,206	8. 3～10. 6	56	昆虫の化石 —虫の4億年と人類—
9	7,690	3,140	3,057	8,043	18	293	1,163	23,404	8. 2～ 9. 28	50	海底の動物 —ベントスの世界—
10	8,821	2,449	4,314	12,312	48	195	6,219	34,358	8. 1～10. 11	61	都市の自然
11	8,236	2,305	3,995	10,733	143	292	5,108	30,812	8. 7～10. 11	56	海をわたった蝶と蛾

VI. 施設の利用状況

■会議室 平成11年度 21件

年月日	団 体 名	人数
11・ 4・10	レッドデータブック近畿研究会	10
4・18	昆虫情報処理研究会	10
4・20	大阪府植物レッドデータブック研究会	10
5・ 9	大阪石友会	10
5・23	関西トノボ談話会	10
6・13	昆虫情報処理研究会	10
7・10	レッドデータブック近畿研究会	10
7・24	野尻湖花粉グループ	10
9・19	大阪石友会	12
9・25	レッドデータブック近畿研究会	15
10・ 9	昆虫情報処理研究会	15
10・16	近畿鳥レッドデータブック	10

年月日	団 体 名	人数
11・27	レッドデータブック近畿研究会	10
11・28	ハネカクシ談話会	15
12・25～27	野尻湖花粉グループ	20
12・ 1・22	レビドプテリストセミナー	15
1・23	近畿地学会	20
2・ 6	近畿植物同好会	20
3・18	日本直翅類学会	15
3・19	ハネカクシ談話会	15
3・29	ヨシ原研究会	10

■集会室 平成11年度 32件

年月日	団 体 名	人数
11・4・4	関西トンボ談話会	40
4・11	日本甲虫学会	40
5・15	種子植物談話会	20
5・22	大阪市小・中学校理科研究会	30
5・23	地学団体研究会大阪支部総会	30
6・6	日本鱗翅学会近畿支部例会	40
6・19	種子植物談話会	20
7・4	獣医学会	30
7・17	種子植物談話会	20
7・24	植物化石セミナー	30
8・21	大阪鳥類研究グループ	20
9・4	日本鳥学会近畿地区会	20
9・5	シダとコケ談話会	20
10・9	健康ウォーキング講習会	40
10・21	おおさかふみんネット広域講座	50
10・23	種子植物談話会	20
10・24	日本甲虫学会	30
11・14	大阪鳥類研究グループ	20
11・20	種子植物談話会	20
11・28	双翅目談話会	30
12・5	関西トンボ談話会	40
12・12	日本甲虫学会	40
12・18	日本鱗翅学会	40
12・25	種子植物談話会	20
12・1・10	アサギマダラを調べる会	30
1・23	近畿植物同好会	20
2・13	関西トンボ談話会	30
3・4	日本昆虫学会近畿支部大会	40
3・5	近畿植物同好会	20
3・12	大阪鳥類研究グループ	20
3・19	双翅目談話会	30
3・26	関西トンボ談話会	40

■実習室 平成11年度 11件

年月日	団 体 名	人数
11・4・11	野尻湖友の会花粉グループ	10
5・2~3	野尻湖友の会花粉グループ	5
6・27	野尻湖ヴィーナスグループ	10
8・7~9	野尻湖花粉グループ	20
11・23	野尻湖ヴィーナスグループ	16
12・5	大阪自然環境保全協会	40
12・23	大阪湾海岸生物研究会	15
12・26	キャツリグサ研究会	10
12・27	野尻湖植物グループ	10
12・1・22~23	野尻湖昆虫グループ	15
2・20	大阪湾海岸生物研究会	20

■講堂 平成11年度 6件

年月日	団 体 名	人数
11・6・3	大阪教育福祉専門学校講演会	120
7・5	大阪府高等学校生物教育研究会	100
10・21	おおさかふみんネット広域講座	88
10・26	日本生物多様性防衛ネットワーク	150
12・2・15	日本蜻蛉学会2000年総会研究発表会	80
3・5	地球科学講演会	150

## VII. 施 設

- 所在地 大阪市東住吉区長居公園1番23号
- 敷地面積 6,743.68㎡
- 建築面積 4,392.67㎡
- 延床面積 7,066.01㎡
- 構 造 鉄筋コンクリート造, 一部屋根鉄骨造  
地下1階, 地上3階

### ■ 主要各室面積・天井の高さ

(展示用施設)		計 2,427.48㎡	(天井の高さ)
オリエンテーション・ホール	550.35㎡	11.00m	
第1展示室	360.55㎡	3.30m	
第2展示室	486.64㎡	7.20m	
第3展示室	403.10㎡	4.70m	
第4展示室	100.00㎡	4.20m	
特別展示室	260.55㎡	4.20m	
2階ギャラリー	266.29㎡	6.80m	
(研究用施設)		計 1,802.82㎡	
館長研究室・暗室	各18.27㎡	2.70m	
動物・昆虫・植物・地史研究室	各47.56㎡	2.40m	
第四紀・外来研究室	各36.54㎡	2.40m	
生物実験室	49.20㎡	2.40m	
化学分析室・くんじょう室	各18.27㎡	2.40m	
電子顕微鏡室	37.43㎡	2.70m	
動物標本製作室	37.71㎡	2.40m	
昆虫・植物標本製作室	各36.54㎡	2.40m	
化石処理室	47.56㎡	2.40m	
石工室	22.21㎡	2.70m	
展示品製作室	28.05㎡	2.70m	
第1収蔵庫	207.09㎡	3.00m	
第2収蔵庫	310.08㎡	3.00m	
第3収蔵庫	207.09㎡	3.00m	
第4収蔵庫	310.08㎡	3.00m	
書 庫	100.30㎡	7.40m	
編集記録室	36.54㎡	2.40m	
(普及教育用施設)		計 604.27㎡	
講堂(映写室・控室含む)	319.09㎡	2.60m	(平均)
普及センター	93.30㎡	2.70m	
集会室	95.12㎡	2.70m	
実習室	96.76㎡	2.70m	
(管理用施設)		計 907.49㎡	
館長室	36.54㎡	2.70m	
副館長室・顧問室	各18.27㎡	2.70m	
事務室	83.34㎡	2.70m	

応接室	29.54㎡	2.70m
宿直室	16.85㎡	2.55m
守衛室	17.64㎡	2.70m
会議室	47.56㎡	2.70m
機械室	472.35㎡	5.85m
電機室	89.92㎡	5.85m
自家発電電気室	49.16㎡	5.85m
中央監視盤室	28.05㎡	2.40m
(共通部分)	計 1,323.95㎡	
1階廊下	118.27㎡	2.70m
2階廊下	102.29㎡	2.40m
ロッカールーム	60.59㎡	2.85m
エレベーターホール(荷物用)	123.16㎡	
ファンルーム(南・北側)	各16.80㎡	
荷捌室	161.69㎡	2.70m
玄関ホール	125.10㎡	3.25m
オリエンテーションホール エレベーター	7.00㎡	
倉 庫	106.56㎡	
1階ホール便所	76.26㎡	
2階ホール便所	37.56㎡	
管理棟便所	43.47㎡	
ダクトスペース	102.70㎡	
階 段	179.30㎡	
その他	46.40㎡	
総計	7,066.01㎡	

### ■ 階数別面積

地階……………	855.07㎡	3階……………	550.95㎡
1階……………	3,178.35㎡	屋階……………	76.93㎡
2階……………	2,404.71㎡		

### ■ 各室定員

講 堂……………	266人	集会室……………	48人
会議室……………	22人	実習室……………	31人
展示室(1階)	415人	展示室(2階)	400人
地 階……………	3人		

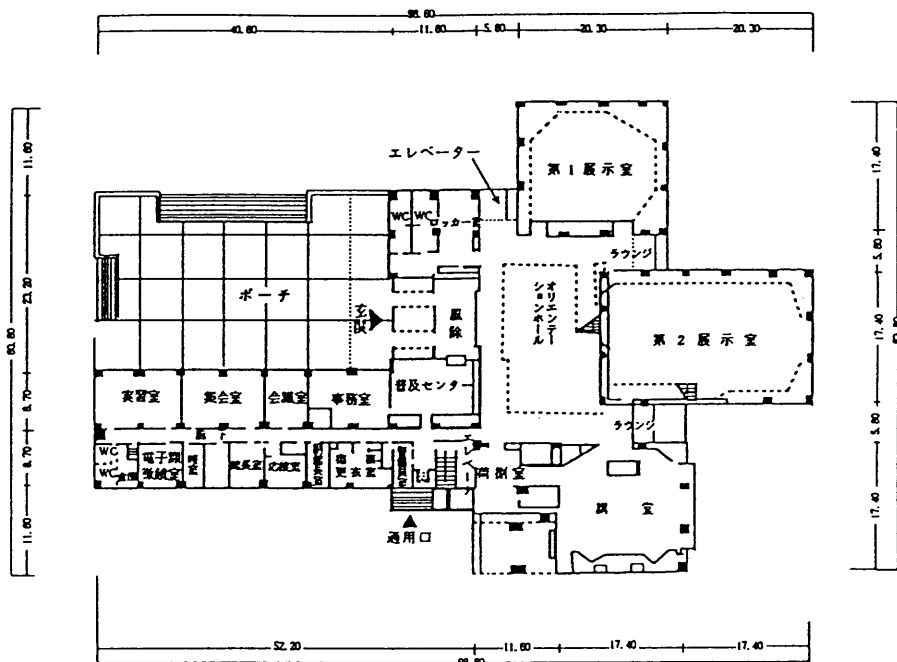
### ■ 工 期 昭和47年1月21日～昭和48年3月31日

### ■ 総事業費

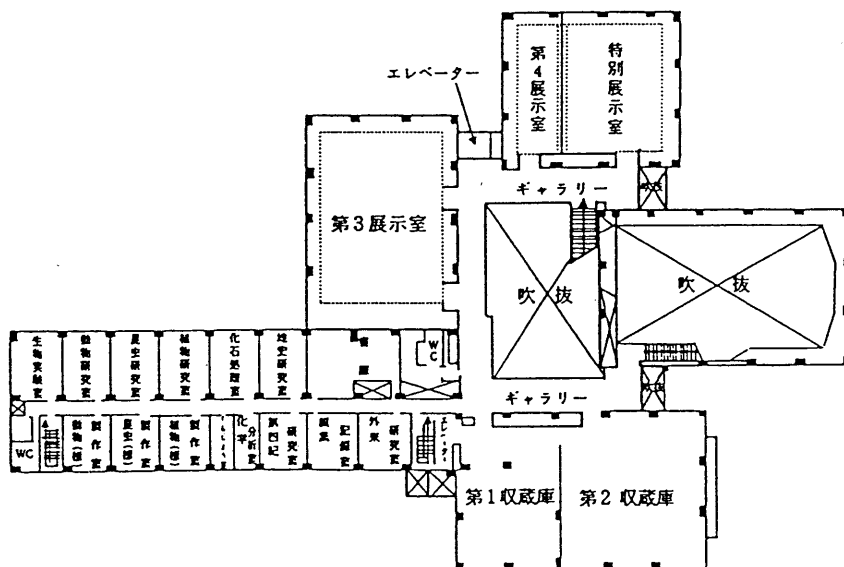
10億1,000万円	
(建設工事費)	7億9,500万円
・本体工事(㈱竹中工務店)	4億9,200万円
・付帯工事	3億300万円
(設計監督委託料)	2,700万円
(その他)	3,800万円
事務費, 移転費, 公園樹木移設工事費	
ネットフェンス設置工事費等	
(内部設備費)	1億5,000万円
・第1展示室ディスプレイ(㈱日展)	2,200万円
・第2展示室ディスプレイ(㈱乃村工芸社)	2,500万円

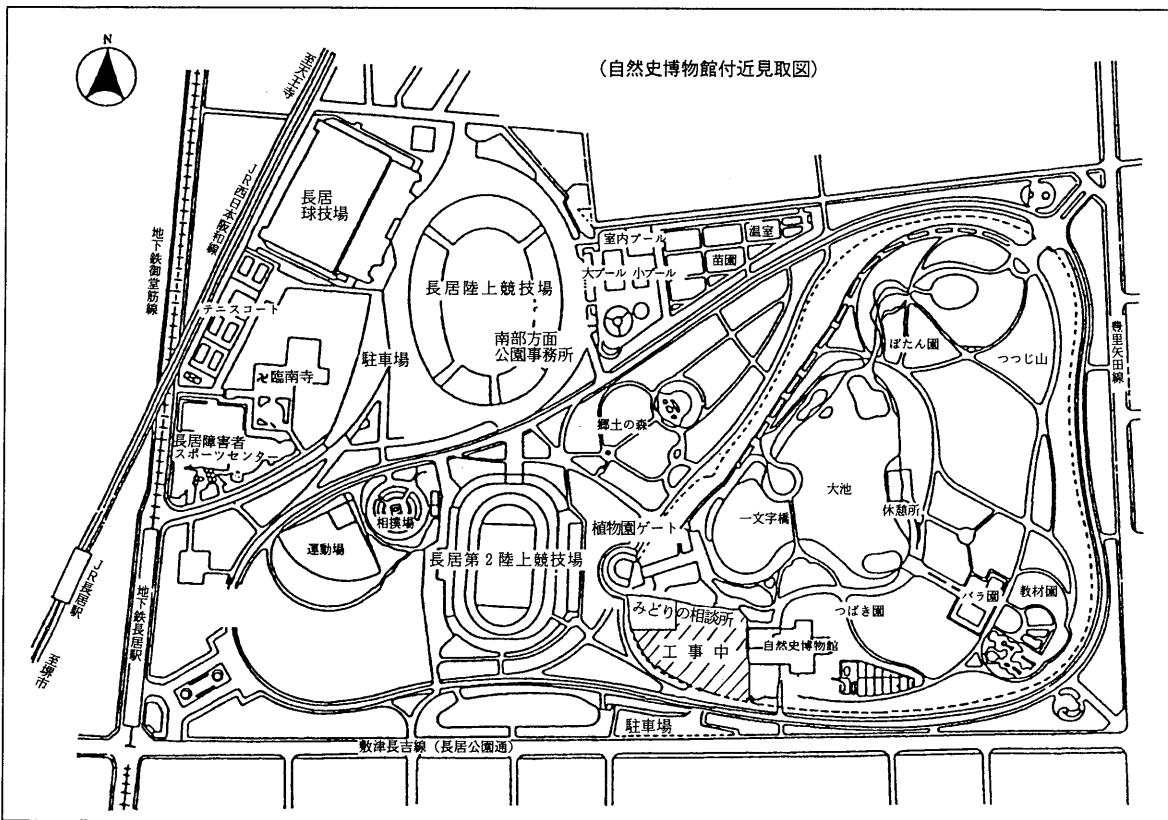
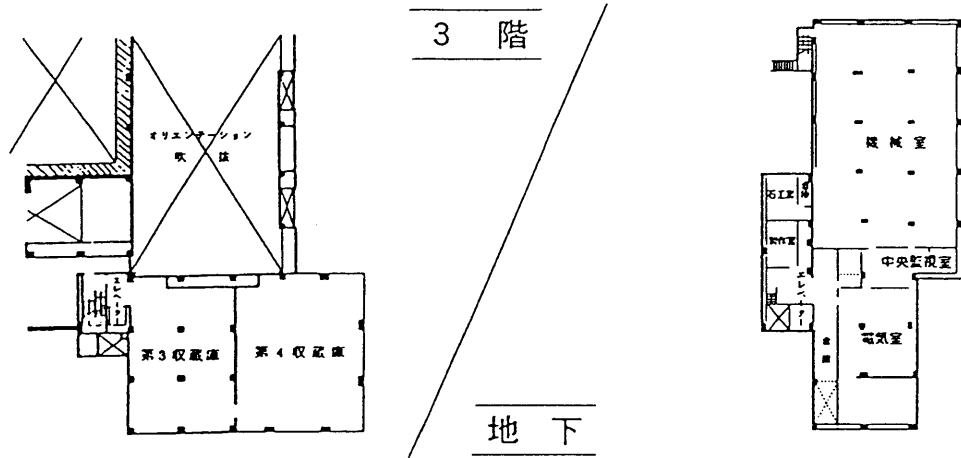
- |                                      |         |                                  |         |
|--------------------------------------|---------|----------------------------------|---------|
| ・第3展示室ディスプレイ (株丹青社)                  | 2,100万円 | ・庁用器具,調査,研究用機器,<br>資料保管用物品等      | 4,400万円 |
| ・オリエンテーションホールディスプレイ<br>(㈱電電広告) 600万円 |         | ■ 国庫補助金・起債                       |         |
| ・展示品購入費 3,200万円                      |         | ・国庫補助金 3,000万円 (47. 10. 13付交付決定) |         |
|                                      |         | ・起 債 3億8,762万円 (47. 8. 25付交付決定)  |         |

1 階



2 階





## ○ 大阪市立自然史博物館条例

制 定 昭49.4.1 条例39  
最近改正 平7.3.16 条例40

大阪市立自然科学博物館条例（昭和32年大阪市条例第38号）を次のように改正する。

### 大阪市立自然史博物館条例

#### （設 置）

**第1条** 大阪市立自然史博物館（以下「博物館」という。）を大阪市東住吉区長居公園に設置する。

#### （目 的）

**第2条** 博物館は、自然史に関する科学について、資料を収集し、保管し、展示するとともに、その調査研究及び普及指導を行い、市民の教養文化の向上に寄与することを目的とする。

#### （事 業）

**第3条** 博物館は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 実物、標本、模型、文献、図書、図表、写真、フィルム等（以下「博物館資料」という。）の収集、保管、展示及び閲覧
- (2) 自然史に関する科学についての調査研究及び博物館資料の保管、展示等に関する技術的研究
- (3) 展覧会、講習会、実習会、研究集会等の開催及び指導
- (4) 博物館資料に関する同定及び指導
- (5) 博物館資料の貸出及び交換
- (6) 他の博物館、学校、学会その他の関係機関との連絡及び協力
- (7) その他必要な事業

#### （観覧料）

**第4条** 博物館の展示場に入場しようとする者は、観覧料を納付しなければならない。ただし、学校教育法（昭和22年法律第26号）第22条第1項に定める小学校就学の始期に達しない者、小学校（これに準ずるものを含む。）の児童及び中学校（これに準ずるものを含む。）の生徒は、この限りでない。

2 観覧料は、1人1回につき、次の範囲内で教育委員会が定める。

区 分	観覧料
高等学校、大学その他教育委員会の定める教育施設に在学する者	200円
その他の者	300円

3 特別の展示をしたときの観覧料は、教育委員会が定める。

（施設の使用及び使用料）

**第5条** 自然史に関する科学についての講演会、講習会その他に関し、博物館の講堂を使用しようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

2 前項に規定する使用の許可を受けた者（以下「使用者」という。）は、1日につき17,000円以内で教育委員会の定める使用料を前納しなければならない。

3 使用者が附属設備を使用しようとするときは、教育委員会が定める使用料を前納しなければならない。

（観覧料等の減免）

**第6条** 教育委員会が公益上その他必要と認めるときは、観覧料又は使用料を減免することがある。

（観覧料等の還付）

**第7条** 既納の観覧料又は使用料は還付しない。ただし教育委員会が特別の事由があると認めるときは、その全部又は一部を還付することがある。

（職 員）

**第8条** 博物館に、館長その他必要な職員を置く。

（施行の細目）

**第9条** この条例の施行について必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則〔昭49.4.2 施行、告示120〕

この条例の施行期日は、市長が定める。

附 則〔昭51.4.1 条例61〕

この条例は、公布の日から施行する。

附 則〔昭55.11.27 条例48〕

この条例は、公布の日から施行する。

附 則〔昭56.4.1 条例53〕

この条例は、公布の日から施行する。

附 則〔昭61.4.1 条例50〕

この条例は、公布の日から施行する。

附 則〔平4.4.1 条例58〕

この条例は、公布の日から施行する。

附 則〔平7.3.16 条例40〕

この条例は、平成7年5月1日から施行する。

## ○ 大阪市立自然史博物館規則

制 定 昭49.4.26(教)規則12

最近改正 平7.4.1(教)規則18

大阪市立自然科学博物館規則(昭和32年大阪市教育委員会規則第16号)を次のように改正する。

### 大阪市立自然史博物館規則

#### (開館時間)

**第1条** 自然史博物館(以下「博物館」という)の開館時間は、午前9時30分から午後4時30分までとする。ただし、都合により変更することがある。

#### (休館日)

**第2条** 博物館の休館日は次のとおりとする。ただし、都合により変更し、又は臨時に休館することがある。

- (1) 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)にあたる場合は、その翌日
- (2) 12月28日から翌年1月4日まで
- (3) 館内整理日(毎月の末日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日にあたる場合は除く。)

#### (入館の制限)

**第3条** 次の各号の1に該当する者に対しては、入館を断り、又は退館させることがある。

- (1) 伝染性の病気にかかっている疑いのある者
- (2) 他人に迷惑となる行為をする者
- (3) 資料又は施設を損傷するおそれがある者
- (4) 他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑となる物品又は動物を携行する者
- (5) 管理上必要な指示に従わない者
- (6) その他支障があると認める者

#### (観 覧)

**第4条** 博物館の展示場に入場しようとする者は、観覧料を納付して観覧券の交付を受けなければならない。

2 観覧券の交付は、閉館時刻の30分前までとする。

#### (観覧料)

**第5条** 大阪市立自然史博物館条例(昭和49年大阪市条例第39号。以下「条例」という。)第4条第2項の規定による観覧料は、1人1回につき、次表のとおりとする。

区 分	観覧料
高等学校、高等専門学校及び大学並びにこれに準ずる教育施設に在学する者	200円
その他の者	300円

2 条例第4条第3項の規定による観覧料は、1人1回につき、500円以内でその都度教育長が定める。

#### (使用の申込み)

**第6条** 条例第5条第1項の規定によって、講堂の使用許可を受けようとする者は、所定の様式により、申し込まなければならない。

#### (使用の制限)

**第7条** 次の各号の1に該当するときは、講堂の使用許可をせず、又は許可を取り消し、若しくは使用を停止することがある。

- (1) 公安又は風俗を乱すおそれがあるとき
- (2) 営利を目的とするとき
- (3) 建物、設備又は展示品を損傷するおそれがあるとき
- (4) 管理上支障があるとき
- (5) その他不適当と認めるとき

#### (使用料)

**第8条** 条例第5条第2項及び同条第3項に規定する使用料は、別表のとおりとする。

#### (観覧料等の減免及び還付)

**第9条** 観覧料又は使用料の減免及び還付は、教育長が行う。

#### (資料等の利用)

**第10条** 資料及び施設の利用については、教育長が定める。

#### (損害賠償)

**第11条** 資料又は施設を損傷又は滅失させた者は、教育委員会の指示によりこれを原状に復し、代物を弁償し、又はその損害を賠償しなければならない。

#### (資料等の寄贈及び寄託)

**第12条** 博物館に、資料等を寄贈若しくは寄託し、又は寄託物の返還を請求しようとする者は、教育委員会に申し出なければならない。

#### (寄託資料等の取扱い)

**第13条** 寄託を受けた資料等は、特別の契約がある場合のほか、本市所有のものと同じ取扱いをする。

#### (寄託資料等の免責)

**第14条** 寄託を受けた資料等が、災害その他の不可抗力によって滅失又は損傷した場合、本市は損害賠償の責めを負わない。

#### (施行の細目)

**第15条** この規則の施行について必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、昭和49年4月27日から施行する。

附 則〔昭51.4.1（教）規則15〕

この規則は、公布の日から施行する。

附 則〔昭56.4.1（教）規則17〕

- 1 この規則は、公布の日から施行する。
- 2 この規則の施行の際現に大阪市立自然史博物館条例（昭和49年大阪市条例第39号）第5条第1項の許可を受けている者の当該使用許可に係る使用料の額については、この規則による改正後の大阪市立自然史博物館規則第8条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則〔昭61.4.1（教）規則10〕

この規則は、公布の日から施行する。

附 則〔平元.4.1（教）規則9〕

- 1 この規則は、公布の日から施行する。
- 2 この規則の施行の際現に大阪市立自然史博物館条例（昭和49年大阪市条例第39号）第5条第1項の許可を受けている者の当該使用許可に係る使用料の額については、この規則による改正後の大阪市立自然史博物館規則第8条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則〔平 4.4.1（教）規則24〕

- 1 この規則は、公布の日から施行する。
- 2 この規則の施行の際現に大阪市立自然史博物館条例（昭和49年大阪市条例第39号）第5条第1項の許可を受けている者の当該使用許可に係る使用料の額については、この規則による改正後の大阪市立自然史博物館規則第8条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則〔平 5.4.1（教）規則3〕

この規則は、公布の日から施行する。

附 則〔平 7.4.1（教）規則18〕

この規則は、平成7年5月1日から施行する。

別表

区 分		使 用 料		
		午 前	午 後	全 日
講 堂		7,000円	10,000円	17,000円
附 属 設 備	冷 房 設 備	3,500円	5,000円	8,500円
	暖 房 設 備	3,500円	5,000円	8,500円
	拡 声 装 置	1式 午前・午後各1回につき 1,800円		
	マ イ ク	1本 午前・午後各1回につき 500円		
	ワイヤレスマイク	1本 午前・午後各1回につき 1,100円		
	テープレコーダー	1台 午前・午後各1回につき 900円		
	スライド映写機（スクリーン付）	1台 午前・午後各1回につき 1,300円		
	16 ミリ 映 写 機（スクリーン付）	1台 午前・午後各1回につき 4,200円		
ビ デ オ 装 置		1式 午前・午後各1回につき 2,200円		

備 考

この表中「午前」とは午前9時30分から正午まで、「午後」とは午後1時から午後4時30分まで、「全日」とは午前9時30分から午後4時30分までとする。

## ○ 大阪市立自然史博物館観覧料等減免要綱

制 定 昭49. 4. 27

最近改正 平11. 4. 1

**第1条** この要綱は、大阪市立自然史博物館条例第6条及び大阪市立自然史博物館規則第9条の規定による観覧料等の減免について定めることを目的とする。

**第2条** 自然史博物館に入場する者が、長居植物園の入場券を呈示したときは、自然史博物館の観覧料から長居植物園の入園料相当額を減額する。

**第3条** 博物館の入場者が30人以上の団体であるときは次の各号に定める割合の観覧料を減額する。

- (1) 入場者が30人以上50人未満の団体 観覧料の1割  
(2) 入場者が50人以上100人未満の団体 観覧料の2割  
(3) 入場者が100人以上の団体 観覧料の3割

**第4条** 保育所、幼稚園、小学校、中学校、盲学校、聾学校又は養護学校の保母又は教職員が、学校行事で園児、児童又は生徒を引率して博物館に入場しようとするときは、当該保母又は教職員の観覧料を免除する。

2 前項の学校長又は施設の長は別紙様式1による大阪市立自然史博物館観覧料減免申請書を観覧する日までに自然史博物館長へ提出しなければならない。

**第5条** 生活保護法（昭和25年法律第144号）、児童福祉法（昭和22年法律第164号）、身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）、知的障害者福祉法（昭和35年法律第37号）、精神保健福祉法及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）、又は老人福祉法（昭和38年法律第133号）に規定する社会福祉施設の職員が、当該施設の入所者（当該施設に収容された者も含む）を引率して博物館に入場しようとするときは、職員、入所者及び介護者の観覧料を免除する。

2 前項の施設の長は別紙様式1による大阪市立自然史博物館観覧料減免申請書を観覧する日までに自然史博物館長へ提出しなければならない。

3 身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、知的障害者（児）認定カード、療育手帳、被爆者健康手帳及び戦傷者手帳等の所持者及び介護を必要とする者が博物館に入場しようとするときは、所持者及び介護者の観覧料を免除する。

**第6条** 大阪市内在住の65歳以上の者でツルマークの健康手帳及び本市発行の敬老優待乗車証を所持している者は、観覧料を免除する。

**第7条** 次の各号の1に該当する要件を満たす場合の団体の使用料を免除する。

- (1) 当館が学術振興又は普及教育に資すると判断して共催する行事  
(2) 当館の事業と関連性が強く、また、学術振興に資すると判断される自然史科学に関する各種の学会並びに研究集会等  
(3) 大阪市立自然史博物館友の会の主催する行事  
(4) 博物館法施行規則第1条に基づく博物館実習

2 前項の団体の長は別紙様式2による大阪市立自然史博物館使用料減免申請書を使用する日までに自然史博物館長へ提出しなければならない。

**第8条** 公益上その他特別の事由があると認めるときは減免する。

附 則

この要綱は、平成11年4月1日から施行する。

様式 1

自然史博物館に団体入館0時に入口で渡してください。

自然史博物館 使用欄	
決 課 裁 長	主 査 査 員
大阪市立自然史博物館観覧料減免申請書	
平成 年 月 日	
大阪市教育長 様	
申請者 校 園 名 (団体名) 校 園 長 名 所 在 地 電 話	
次の通り観覧料を免除下さるよう申請します。(印不要)	
目 的	
日 時	年 月 日 ( ) 午前・午後 時 分から
引率責任者氏名	
引率者(減免)人数	名
生徒・園児・他人数	名
合計人数	名
申請理由	大阪市立自然史博物館条例第6条及び同規則第9条による。

様式 2

## 大阪市立自然史博物館使用料減免申請書

平成 年 月 日

大阪市教育委員会教育長 様

申請者 団体名  
代表者名  
住 所  
電 話

下記の使用について、その使用料を免除下さるよう申請します。

使用年月日	平成 年 月 日 ( 曜 日 )	使用時間	午前 時 分～午前 時 分 午後 時 分～午後 時 分	参加人員	人
使用目的					
種 別	数 量				
	午 前	午 後	全 日		
講 堂					
附 属 設 備					
冷 房 設 備					
暖 房 設 備					
拡 声 装 置					
マ イ ク					
ワイヤレスマイク					
スライド映写機					
16ミリ映写機					
ビデオ装置					

使用するにあたっては、大阪市立自然史博物館条例及び同規則を厳守し、かつ係員の指示に従い使用中に発生した一切の責任は、当方において負うことを誓約します。

注意事項

使用時間

午前…午前9時30分～正午  
午後…午後1時～午後4時30分  
全日…午前9時30分～午後4時30分  
(準備と後片付けの時間は使用時間に含まれます。)

自然史博物館 使用欄	
決 課 裁 長	主 査 査 員

## 博物館実習生の受入れに関する運用方針

大阪市立自然史博物館

制定 平成7年2月1日

### 〈目 的〉

1. この運用方針は、博物館法施行規則第1条の規定に基づく、大学からの博物館実習生受入れについて、一定の規制基準をもうけ、当館の業務に支障のない範囲において受入れることを目的とする。

### 〈受入れの規制〉

2. 受入れの時期は夏期（7月後半～8月末）または秋期（10月初～11月末）の期間中とし、1人当りの実習日数は5日以内で、当館が指定する。
3. 受入れ人数の総数は、年間20名以内とする。ただし、1大学については5名以内とする。
4. 受講資格は、理科系・文科系を問わないが、大学において生物学または地学関係の教科を履修し（一般教養でも可）、その単位を取得している者に限る。
5. 実習の内容は、当館の概要説明、展示・施設見学、標本・資料の整理、並びに普及行事の補助などとする。

### 〈受入れの願書〉

6. 博物館実習生受入れの依頼をする大学は、教務係または博物館学の担当教官が、当館での実習を希望する学生を集約した上で、希望する時期および希望者名を記した内諾伺文書を、当該年度の4月末までに、当館の博物館実習担当者宛に提出すること。

なお、学生個人からの依頼は受けけない。

### 〈受入れの諾否〉

7. 当館では上記の依頼について審査し、日程等を決定の上、5月中旬に諾否を回答する。

### 〈その他〉

8. 大学において自然史に関係する分野を専攻し、当館においてその関連実技の習得を内容とした実習を受けようとする学生については、当館の当該分野の研究室または学芸員の応諾があれば、上記とは別に受入れることがある。

# ○ 建物並びに館内展示室の写真撮影等に関する運用方針について

制 定 昭51.12.  
改 正 昭54.7.  
最近改正 昭62.12.

## (目 的)

- この運用方針は、建物並びに館内展示室の写真・テレビ撮影等（以下撮影等という）について一定の規制基準をもうけ、観覧者の利便と展示資料の損傷防止をはかることを目的とする。

## (撮影等の規制)

- 個人使用を目的とした撮影等は、入園入館者のさまたげにならず、かつ、建物・展示資料の損傷にならない限り規制しない。

- 純然たる商業目的で撮影等をする場合は禁止する。ただし、当館の社会教育施設としての普及、宣伝に十分効果があると認められる場合はこの限りでない。

## (撮影等の許可願)

- 前項ただし書き、ならびに大型機材等（照明装置、テレビカメラ等）を使用する場合は、別紙様式により届出、許可を受けなければならない。

## (許可条件)

- 前項により許可を受けた者は、次の条件を遵守しなければならない。

- 入園、入館者のさまたげにならず、かつ、建物、展示資料を損傷させないこと。
- 撮影した写真等の使用は、今回の許可願の事項に限ること。
- 撮影した写真等の使用にあたっては、必ず当館の館名を明示するとともに、当館の利用案内をすること。
- 写真掲載紙等は、当館に1部提出すること。
- その他詳細については、当館と打ち合わせすること。

## (その他)

- 当館が提供する資料等の使用についても、この方針を適用する。

決裁	庶務課長	主 査	係 員
年			
月	学芸課長	主任学芸員	学芸員
日			

## 写真・テレビ撮影等許可願

平成 年 月 日

大阪市立自然史博物館長様

所 在 地  
会社・団体名  
代表者氏名印  
(担 当 者: )  
(電話番号: )

次のとおり、写真・テレビ撮影等を許可くださ  
るようお願いします。

日	時	平成 年 月 日( ) 時 分～ 時 分
目	的	
撮影場所・資料等		
人数・使用機材		
(テレビの場合) 放 映 日 時 番 組 名 タ イ ト ル (写真の場合) 掲 載 誌 名 記事タイトル 著 者 名 発 行 者 名 発行年月日		

## 写真・テレビ撮影等許可願

平成 年 月 日

様

大阪市立自然史博物館  
館 長

平成 年 月 日付で申請のあった「写真・テレビ撮影等許可願」について次のとおり許可します。

日	時	平成 年 月 日( ) 時 分～ 時 分
目	的	
撮影場所・資料等		
人数・使用機材		
(許可条件) (1) 入園・入館者のさまたげにならず、かつ、建物・展示資料を損傷させないこと。 (2) 撮影した写真等の使用は、今回の許可願の事項に限ること。 (3) 撮影した写真等の使用にあたっては、必ず当館の館名を明示することとともに、当館の利用案内をすること。 (4) 写真掲載紙等は、当館に1部提出すること。 (5) その他詳細については、当館と打ち合わせすること。		

## 外部研究者の受入れに関する要綱

大阪市立自然史博物館

制定 平成12年4月1日

### 第1条（目 的）

自然史科学及び博物館学の発展に寄与するため、大阪市立自然史博物館（以下「当館」という）の設備及び収蔵資料の外部研究者による利用を促進する要綱を定める。ただし、「博物館実習」単位取得のための利用、及び会議室、集会室、実習室、講堂の部屋利用については別に定める。

### 第2条（定 義）

当館の外部研究者とは、以下に掲げる者とする。いずれも自然史科学、博物館学及びその周辺分野の研究を目的とする者でなければならない。

#### (1) 一時利用者

研究上の目的で、当館の施設及び標本を一時的に利用する者。

#### (2) 長期利用者

継続的に当館を利用する研究者で、次の各号に掲げる者とする。

##### ・ 外来研究員

大学、研究機関、教育機関、博物館などで当該分野に関する研究歴を持つ者、または学会で当該分野における研究実績が認められる者。

##### ・ 研究生

大学卒業論文作成年次の学生、大学院生、一般社会人などで、当館の設備及び収蔵資料などを利用した研究を、当館学芸員の指導の下に行なおうとする者。

##### ・ 共同研究員

当館の総合研究、グループ研究に参加する者。

### 第3条（期 間）

長期利用者の利用期間はそれぞれ次の通りとする。

#### (1) 外来研究員

原則として毎年4月1日から翌年3月31日までの1年間。

#### (2) 研究生・共同研究員

研究計画に必要と認められる期間。

### 第4条（手続き）

#### (1) 一時利用者

一時利用を希望する者は、予め担当学芸員（利用し

ようとする標本または設備を管理する学芸員）から内諾を得た上、利用当日、受付において申し出て、所定の利用票（様式1）に記入する。

#### (2) 長期利用者

長期利用を希望する者は、所属機関の長または指導教官を通じて、所定の書式により、利用申請書（様式2、大学生・大学院生は推薦書1通を添付）を館長あてに提出する。

なお、機関に所属しない者については、直接の申請ができることとする（様式3）。

申込み期限は利用開始の前々月15日とする（外来研究員については前年度2月15日）。

### 第5条（許 諾）

前条の申し込みについての許否は、館内の選考委員会による審議を経て、館長が決定する。

### 第6条（経 費）

当館は、外部研究者の施設使用に対して、経費を徴収することはしない。ただし、高額を要する一部機器の運用経費、消耗品費等については関係者で協議の上、決定する。

### 第7条（報 告）

長期利用者は、研究期間終了後、速やかにその研究状況及び成果を記載した研究成果報告書を館長に提出しなければならない。

### 第8条（成 果）

外部研究者が研究成果を発表する場合は、当館の設備や収蔵資料を利用した旨を明記しなければならない。また、印刷発表後は、すみやかに当該印刷物またはその複写物を館長に提出しなければならない。

### 第9条（変更・中止）

長期利用者が研究計画の変更を生じ、利用を中止する場合は、すみやかに館長に届け出なければならない。

### 第10条（資格の取消し）

外部研究者がこの要綱に定められた事項を遵守しない場合、あるいは外部研究者としてふさわしくない事態が生じた場合には、館長はその資格を取り消すことができる。

様式 1

No. \_\_\_\_\_

大阪市立自然史博物館 研究設備・機器、収蔵資料  
一時利用票

本票は当館の「外部研究者受入れに関する要綱」に基づき、当館の研究設備・機器あるいは収蔵資料の一時的な利用について、予め担当学芸員の内諾を得た者が、当日受付において配布を受けるものです。記入の上、担当学芸員に提出してください。

利用日	平成 年 月 日		
目的			
利用する設備・機器、収蔵資料			
利用者	氏名	所属または住所	電話連絡先
担当学芸員名			

決裁	館長	副館長	庶務課長	学芸課長	助幹事	係員	学芸員

様式 3

大阪市立自然史博物館 長期利用申請書

大阪市立自然史博物館館長 様

平成 年 月 日

(本人)

住 所 \_\_\_\_\_

電 話 \_\_\_\_\_

氏 名 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

貴館における研究を下記の通り実施させていただき、貴館の「外部研究者の受入れに関する要綱」により申請いたします。

利用形態	外来研究員 ・ 研究生 ・ 共同研究員 (○で囲む)
研究課題	
研究期間	
実施計画	
使用する設備・機器、収蔵資料	

様式 2

大阪市立自然史博物館 長期利用申請書

大阪市立自然史博物館館長 様

平成 年 月 日

(所属機関の長または指導教官)

所属機関 \_\_\_\_\_

所 在 地 \_\_\_\_\_

電 話 \_\_\_\_\_

職 名 \_\_\_\_\_

氏 名 \_\_\_\_\_ 印 \_\_\_\_\_

貴館における研究を下記の通り実施させていただき、貴館の「外部研究者の受入れに関する要綱」により申請いたします。

利用形態	外来研究員 ・ 研究生 ・ 共同研究員 (○で囲む)
研究者	所属部局(教室)、職名(学生)、電話連絡先
	氏 名
研究課題	
研究期間	
実施計画	
使用する設備・機器、収蔵資料	





---

# ANNUAL REPORT

of the

Osaka Museum of Natural History

for the fiscal year of 1999

Nagai Park, Higashi-sumiyoshi-ku, Osaka, 546-0034 Japan

---

Issued: April 1, 2001.